平成29年版消防年報



甘木・朝倉消防本部

―はしがき―

この年報は、甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防の現勢と平成29年中における消防統計などを広く紹介するため収録したものです。

本書は、平成30年4月1日を基準に作成し、警防編の統計は暦年、その他については会計年度で表し、一部当該表に記載する年月日により編集しています。

平成30年7月

甘木 · 朝倉消防本部

平成30年度全国統一防火標語

忘れてない? サイフにスマホに 火の確認

INDEX

総括編	警防編
ー 管内の概要 ・・・・・・・ 1	- 車両の配置状況 ・・・・・・・ 39
圏域の紹介 ・・・・・・・・・ 2	消防水利の状況 ・・・・・・・・ 39
管内図と庁舎の現況 ・・・・・・ 4	消防機材の配置状況 ・・・・・・・ 40
消防の歴代管理者 ・・・・・・ 6	火災の概要 ・・・・・・・・・・ 41
消防本部、消防署の組織・・・・・・ 8	市町村別の火災状況及び月別の火災件数・・ 42
消防本部、消防署の事務分掌・・・・ 9	原因別の出火件数 ・・・・・・・・ 44
消防相互応援協定の状況 ・・・・・ 11	火災件数10年の推移 ・・・・・・ 44
消防本部の沿革 ・・・・・・・・ 12	救急の概要 ・・・・・・・・・・ 45
	市町村別の救急状況 ・・・・・・・ 46
総務編	月別、時間別の出場件数 ・・・・・・ 47
職員の配置状況 ・・・・・・・ 23	年齢区分別、程度別、月別の搬送状況 ・・ 48
職員の任用状況 ・・・・・・・・ 23	程度別の搬送状況 ・・・・・・・・ 49
職員数の推移 ・・・・・・・・ 23	救急出場件数10年の推移 ・・・・・・ 49
職員の勤続年数調 ・・・・・・・ 24	応急手当の普及啓発活動状況 ・・・・・ 50
職員の年齢調 ・・・・・・・・ 25	救命スタッフのいる事業所認定制度 ・・・ 50
職員の教養実施状況 ・・・・・・ 26	救助の概要 ・・・・・・・・・・ 51
職員の資格保有状況 ・・・・・・ 27	月別、市町村別の出動件数 ・・・・・・ 51
当初予算額 ・・・・・・・・・ 28	発生場所別の出動件数 ・・・・・・・ 52
	事故種別出動件数比率 ・・・・・・・ 52
予防編	出動人員、活動人員 ・・・・・・・ 53
建築確認同意事務処理の状況 ・・・・ 29	救助出動件数10年の推移 ・・・・・・ 53
防火対象物の状況 ・・・・・・・ 30	通信指令系統図 ・・・・・・・・ 54
中高層建築物の現況(5階以上) ・・ 32	1 1 9 番着信状況 ・・・・・・・ 55
各種届出事務処理の状況 ・・・・・ 33	医療機関案内状況 ・・・・・・・ 55
危険物施設の状況 ・・・・・・・ 34	
危険物施設の査察実施状況 ・・・・・ 34	消防団編
危険物規制事務処理の状況 ・・・・・ 35	消防団員数 ・・・・・・・・・・ 56
危険物手数料徴収の状況 ・・・・・ 35	車両台数 ・・・・・・・・・・ 56
甘木・朝倉幼少年婦人防火委員会 ・・ 36	年齢別団員数 ・・・・・・・・・ 57
甘木・朝倉防災協会 ・・・・・・ 37	在職年数別団員数 ・・・・・・・・ 57
筑後地区消防設備士会朝倉部会 ••• 37	
外郭団体の活動・・・・・・・・ 38	

総 括 編

管内の概要	要	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	1
圏域の紹介	介		•	•	•		•		•	•	•				•	2	~	3
管内図と原	宇舎の	現況	7				•		•	•	•					4	~	5
消防の歴化	七管理	者			•	•	•		•	•	•			•	•	6	~	7
消防本部、	消防	署0)組	織			•	•	•	•	•				•			8
消防本部、	消防	署0)事	務	分	掌			•	•	•				9	~	1	1
消防相互原	芯援協	定 <i>0</i>)状	況			•		•	•	•			•	•	•	1	1
消防本部(の沿革													1	2	~	2	2

甘木·朝倉消防本部の基本方針 めざそう 住民の安全 そして安心

重点施策事項

- 1 住民のニーズに応える防災情報の提供
- 2 住民のための消防行政サービスの徹底
- 3 事務の簡素化・効率化と活力ある職場作りの推進
- 4 自己意識の改革(態度・服装・笑顔・傾聴)と実行
- 5 報告・連絡・相談・的確な指示の徹底
- 6 体力・身心の強化と健康の保持増進
- 7 安全管理で明るく楽しい快適な職場環境の維持

職員綱領

- 1 吾等消防職員は職責を自覚し、規律の保持につとめよう。
- 2 吾等消防職員は身心の鍛錬に励み、知識技術の向上をはかろう。
- 3 吾等消防職員は和合の精神をもって団結し、親しまれる消防人になろう。

(甘木・朝倉消防職員綱領全文より抜粋)

事故防止一斉唱和

- 1 安全呼称の徹底
- 2 左右確認・最徐行の徹底
- 3 赤信号・一旦停止の徹底
- 4 車両誘導は確実に
- 5 優先通行権を過信しない

管内の概要

● 位置

福岡県の中央部、福岡市の南東約40km、久留米市の北東約20kmの場所に、組合消防を構成する中核の朝倉市が位置し、東に東峰村、西に筑前町の3市町村、管内人口85,503人からなります。

● 地勢

管内を北西から南東へと貫く最重要幹線道路である国道386号線から南側は盆地となっていますが、同道路から北側、すなわち市域北部から北東部〜東部にかけて古処山をはじめとする600〜900m級の山々が連なっています。この山地の中に福岡市など周辺地区への水資源供給の役割を担う江川ダム・寺内ダムがあります。更に小石原川ダム(仮称)が江川ダム上流に建設中です。

また、圏域の南側には、境界にほぼ沿う形で筑後川が流れています。

● 観光

全国疏水百選にも選定されている朝倉市の「堀川用水」は、江戸時代に当時の最新技術で築造されました。筑後川から取水する山田井堰、人力で掘られた堀川、水田を潤す水車群などからなり、築造から2世紀を経た現在も朝倉地域の農業を支え、自然と調和した美しい水景をかもし出しています。

特に堀川用水のはじまりである山田井堰は、舟通し・魚道・砂利吐きを持つ日本唯一の傾斜堰床式石張堰として歴史的にも貴重なものです。その優れた工法は、アフガン復興支援の灌漑用水モデルとして活用されています。

平成26年に山田井堰・堀川用水・水車群は、世界かんがい施設遺産に登録されました。

朝倉市菱野の国史跡「三連水車」が平成29年7月九州北部豪雨により流木や土砂が埋め尽くし甚大な被害を受けましたが、懸命な復旧作業により稼働を始めました。地域の「復興のシンボル」として被災地の住民の心を潤しています。







甘木・朝倉広域市町村圏事務組合

- ●人 口 85,503 人
- ●世帯数 33,032 世帯
- ●面 積 365.78 Km²





甘木・朝倉圏域は、福岡県のほぼ中央部に位置し、朝倉市・筑前町・東峰村の3市町村で構成されている地域です。地域の形状は東西に長く、西に小郡市や筑紫野市、東に大分県日田市、北に嘉麻市、南にうきは市と接しています。

朝倉市

- ●人 口 53,743 人
- ●世帯数 21,192 世帯
- ●面 積 246.71 Km²





菱野の三連水車(平成29年7月九州北部豪雨後に再稼働したとき)

筑後川北岸に広がる朝倉市は、三連水車などでも知られるのどかな田園都市。その豊かな自然は、博多万能ネギ、柿や梨などの果物、全国でも希少な淡水ノリ「スイゼンジノリ」などの特産品を生み出してくれます。また、筑前の小京都と称される城下町「秋月」や、夏の風物詩「鵜飼い」が有名な原鶴温泉など、来訪者を魅了する多彩な観光資源も魅力です。 平成29年7月九州北部豪雨災害からの一日も早い復旧・復興へ歩みを進めています。

東峰村

- ●人 □ 2,163 人
- ●世帯数 864 世帯
- ●面 積 51.97 Km²





伝統工芸品の小石原焼

東峰村は、歴史と文化と自然が調和した緑豊かな村です。経済産業大臣指定伝統的工芸品の一つである「小石原焼」や「森の巨人たち百選」に選ばれた「行者杉」、「日本の棚田百選」に選ばれた竹地区の美しい棚田、「平成の名水百選」に選ばれた「岩屋湧水」があり、観光資源の宝庫となっています。

村内には平成29年7月九州北部豪雨の災害の爪痕が数多く残っていますが、この災害を教訓として今後の災害に備えていくとともに復旧・復興へ向け一歩一歩、歩んでいます。

筑 前 町

- ●人 口 29.597 人
- ●世帯数 10.976 世帯
- ●面 積 67.10 Km²





ファーマーズマーケットみなみの里

米・麦・大豆の生産を中心とした、田園風景広がる筑前町。「都会から近い田舎」が魅力のまちです。「食に感謝し、平和を願うまち」を町のテーマに、平成23年には「ちくぜん食の都づくり宣言」を行い、食に関する取り組みを推進しています。平成29年に完全開園となった筑前町多目的運動公園は、多くの来場者で賑わっています。また、かつての大刀洗飛行場跡地に建設した町立大刀洗平和記念館は、より多くの来館者を収容できるよう、平成29年に新館を増築。平和の大切さを後世に語り継いでいきます。写真はファーマーズマーケットみなみの里。連日多くの人が地元の新鮮な食材を買いに訪れています。

管内図と庁舎の現況

西部分署



所 在 地 朝倉郡筑前町下高場3599番地3 敷 地 面 積 1,989.32㎡ 構 造 鉄筋コンクリート造2階建 延 面 積 720.87㎡ 管 轄 区 域 筑前町



甘木 • 朝倉消防本部 甘木 • 朝倉消防署



所 在 地 朝倉市一木18番地20 敷 地 面 積 7,054.86㎡ 構 造 鉄筋コンクリート造3階建 延 面 積 2,798.00㎡ 管 轄 区 域 朝倉市・朝倉郡一円

東出張所





朝倉郡東峰村大字小石原鼓837番地11 所 在 地 敷地面積 1,659.80m² 鉄筋コンクリート造鋼板葺 2 階建 5 7 6. 7 3 ㎡ 構 造

管轄区域 東峰村

東部分署



朝倉市杷木寒水92番地1 所 在 地 1,439.53㎡ 鉄筋コンクリート造2階建 464.12㎡ 朝倉市杷木地域 敷地面積

造 延面積

管轄区域

朝倉出張所



朝倉市宮野2142番地2 所 在 地 敷地面積 1,833.00m²

鉄筋コンクリート造2階建 390.15㎡

横 造 鉄筋コンクリー 延 面 積 390 15㎡ 管轄区域 朝倉市朝倉地域

消防の歴代管理者

甘木市消防本部(昭和40年3月1日 ~ 昭和51年9月30日)

市長

歴	代	氏			名	就	任	年	月	日	退	任	年	月	日	在 任	期間	備	考
初	代	塚	本	倉	人	昭和	404	年	3 月	1日	昭和	4 7 4	∓ 11	月1	7日	7年	9月		
	代	富	田	英	_	昭和	474	年 1	1月1	8日	昭和	5 1 4	∓ 5	月2	1日	3 年	7月		
Ξ	代	塚	本	倉	人	昭和	5 1 :	年	6月2	0日	昭和	5 1 £	¥ 9	月3	0日		4 月		

消防長

歴	代	氏			名	就	任	年	月	日	退	任	年	月	日	在任	期間	備	考
初	代	塚	本	倉	人	昭和	4 0	年(3 月	1日	昭和	4 2 3	年12	2月2	1日	2年1	IO月	事務	取扱
=	代	恴	橋	清	美	昭和	4 2	年1:	2月2	2日	昭和	494	年 6	月1	0日	6年	6 月		
Ξ	代	臣	崎	房	美	昭和	49:	年(6日1	1日	昭和	5 1 4	年 9	月3	0日	2 年	4 月		

消防署長

歴																	期間	備	考
初	代	詗	橋	清	美	昭和	4 0	年 3	月	5日	昭和	4 8 年	₹11	月3	0日	8年	9 月		
=	代	日	崎	房	美	昭和	4 8 :	年12	2月	1日	昭和	5 1 年	∓ 9	月3	0日	1年	10月		

甘木·朝倉消防本部 (昭和51年10月1日 ~ 現在)

理事長

歴	代	氏			名	就	任	年	月	日	退	任	年	月	日	在亻	£	期間	備	考
初	代	塚	本	倉	人	昭和	5 1	年 1	Ο月	1日	昭和	6 3	年 (6月1	9日	1 1 全	F	9月	甘木	市長
=	代	友	納	昭	智	昭和	6 3	年	6月2	20日	平成	3	年(3月2	8日	2 年	F	9月	甘木	市長
Ξ	代	中	島	茂	嗣	平成	3	年	5月	7日	平成	8	年:	5月1	5日	5 £	F	0月	甘木	市長
四	代	佐	藤	誠	良	平成	8	年	7月1	4日	平成	12	年	7月1	3 日	4 호	F	0月	甘木	市長
五	代	塚	本	勝	1	平成	1 2	年	7月1	9日	平成	18	年(3月1	9日	5 £	F	8月	甘木	市長
	16	坏	4	1 91	人	平成	1 8	年	5月	2日	平成	2 2	年 4	4月2	2日	3 €	F 1	1月	朝倉	市長
六	代	森	田	俊	介	平成	2 2	年	4月2	23日	平成	3 0	年 4	4月2	2日	8 술	F	0月	朝倉	市長
七	代	林		裕	=	平成	3 0	年	4月2	23日		在	職	中					朝倉	市長

副理事長

歴	代	氏			名	就	任	年	月	日	退	任	年	月	日	在亻	Ŧ :	期間	備	考
初	代	藤	原	重	実	昭和	5 1 4	∓ 1 C	月	1日	昭和	5 4 年	F 4	月3	0日	2 年	F	7月	朝倉	町長
	代	林		-=	==	昭和	5 4 4	₹ 5	5月1	4 日	昭和	6 2 年	F 4	月	9日	7 호	F 1	1月	杷木	町長
Ξ	代	徳	田	善	友	昭和	6 2 4	₹ 5	月	7日	平成	元年	F 7	/月2	3 日	2 生	F	3 月	夜須	町長
四	代	藤	井	金	與	平成	元年	₹ 8	月	3 日	平成	3 年	F 4	月3	0日	1 全	F	9 月	朝倉	町長
五	代	稲	永	勝	己	平成	3 4	∓ 5	月	7日	平成	7 年	F 4	月3	0日	3 €	F 1	1月	三輪	町長
六	代	熊	谷	昭	巳	平成	7 4	₹ 5	5月1	2 日	平成	1 1 年	F 4	月3	0日	3 €	F 1	1月	杷木	町長
七	代	手	柴	豊	次	平成	1 1 4	₹ 5	5月1	2 日	平成	17年	F 3	月2	1日	5 全	F 1	Ο月	三輪	町長
	16	 	木	豆	火	平成	174	₹ 5	月 1	9日	平成	2 1 年	F 4	月2	3 日	3 年	Ę 1	1月	筑前	町長
八	代	田	頭	喜り	乜	平成	2 1 4	₹ 5	月 2	20日		在	職	中					筑前	町長

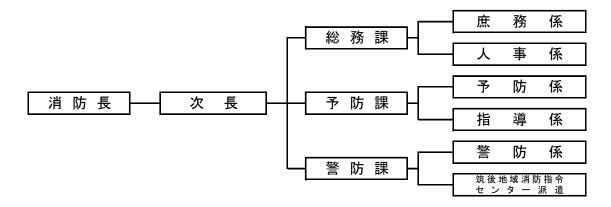
消防長

歴	代	氏		名	就任	年 月	日	退任年	月 日	在任期間
初	代	Щ	奇 房	美	昭和 5 1	年10月	1日	昭和 5 3 年 3 月	31日	1年 6月
=	代	白石	5 公	海	昭和 5 3	年 4月	1日	昭和 5 7 年 2 月	28日	3年11月
Ξ	代	山田	田昌	實	昭和 5 7	年 3月	1日	昭和 6 3 年 3 月	31日	6年 1月
四四	代	空見	月道	雄	昭和 6 3	年 4月	1日	平成 4年 3月	31日	4年 0月
五	代	立る	5	新	平成 4	年 4月	1日	平成 8年 3月	31日	4年 0月
六	代	西冏	岡 隆	±	平成 8	年 4月	1日	平成 1 1 年 2 月	10日	2年11月
七	代	川藤	泰 市	郎	平成 11	年 2月	11日	平成 15年 3月	31日	4年 1月
八	代	金	子義	郎	平成 1 5	年 4月	1日	平成 19年 3月	31日	4年 0月
九	代	舟っ	大 潤	_	平成 19	年 4月	1日	平成 2 2 年 3 月	31日	3年 0月
+	代	和佐里	野 一	文	平成 2 2	年 4月	1日	平成 2 3 年 3 月	31日	1年 0月
+-	-代	竹ま	‡	隆	平成 2 3	年 4月	1日	平成 2 5 年 3 月	31日	2年 0月
+=	代	池田	田伸	_	平成 2 5	年 4日	1日	平成 2 7 年 3 月	31日	2年 0月
+3	Ξ代	大 柞	南喜	彦	平成 2 7	年 4日	1日	在職中		

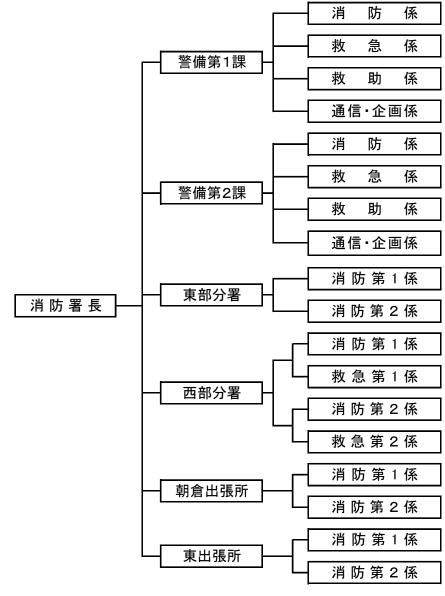
消防署長

<u>10 197.</u>	프.					<u> </u>	
歷(代	氏			名	就任年月日 退任年月日	在任期間
初(代	山	崎	房	美	昭和 5 1 年 1 0 月 1 日 昭和 5 2 年 1 0 月 3 1 日	1年 1月
_ f	代	山	田	昌	實	昭和 5 2 年 1 1 月 1 日 昭和 5 5 年 3 月 3 1 日	2年 5月
三 f	代	空	閑	道	雄	昭和 5 5年 4月 1日 平成 元年 3月31日	9年 0月
四作	代	立	石		新	平成 元年 4月 1日 平成 4年 3月31日	3年 0月
五 f	代	Ш	島	勝	治	平成 4年 4月 1日 平成 8年10月31日	4年 6月
六 f	代	Ш	藤	市	郎	平成 8年11月 1日 平成10年 3月31日	1年 5月
七 f	代	立	野	紀	幸	平成 10年 4月 1日 平成 12年 3月31日	2年 0月
八 f	代	金	子	義	郎	平成 1 2年 4月 1日 平成 1 3年 3月31日	1年 0月
九 化	代	立	野	紀	幸	平成 13年 4月 1日 平成 14年 3月31日	1年 0月
+ f	弋	金	子	義	郎	平成 1 4年 4月 1日 平成 1 5年 3月31日	1年 0月
+-1	代	林		武	好	平成 15年 4月 1日 平成 19年 3月31日	4年 0月
十二代	代	大	場		豊	平成 19年 4月 1日 平成 20年 3月31日	1年 0月
十三作	代	野	村	良	和	平成 2 0年 4月 1日 平成 2 2年 3月31日	2年 0月
十四台	代	小	島		誠	平成 2 2 年 4 月 1 日 平成 2 3 年 3 月 3 1 日	1年 0月
十五台	代	大	熊	勝	径	平成 2 3 年 4 月 1 日 平成 2 5 年 3 月 3 1 日	2年 0月
十六台	代	田	中	俊	次	平成 2 5 年 4 月 1 日 平成 2 6 年 3 月 3 1 日	1年 0月
十七个	代	橋	本	良	=	平成 2 6年 4月 1日 平成 2 7年 3月31日	1年 0月
十八作	代	羽	野		勉	平成 27年 4月 1日 平成 29年 3月31日	2年 0月
十九任	代	仲	道		優	平成 2 9年 4月 1日 在職中	

消防本部の組織



消防署の組織



消防本部、消防署の事務分掌

消防本部

総務課

庶務係

- (1) 例規及び令達に関すること。
- (2) 文書の審査及び収受・発送に関すること。
- (3) 予算に関すること。
- (4) 物品の出納保管に関すること。
- (5) 契約に関すること。
- (6) 財産に関すること。
- (7) 公印に関すること。
- (8) 消防施設に関すること。
- (9) 車両等の燃料の管理に関すること。
- (10) 消防事務の総合企画及び調整に関すること。
- (11) 庁舎に関すること。
- (12) 課の庶務に関すること。
- (13) その他各課、係に属しないこと。

人事係

- (1) 職員の任免、服務、分限及び懲戒その他身分に関すること。
- (2) ほう賞及び表彰に関すること。
- (3) 職員の給与及び福利厚生に関すること。
- (4) 職員の教養、監察に関すること。
- (5) 職員の公務災害及び賞じゅつに関すること。
- (6) 渉外に関すること。
- (7) 職員の給与品及び貸与品に関すること。
- (8) 消防職員委員会に関すること。

予防課

予防係

- (1)課の庶務に関すること。
- (2) 危険物の規制に関すること。
- (3) 少量危険物及び指定可燃物の規制に関すること。
- (4)液化石油ガス販売事業許可の意見書交付に関すること。
- (5) 危険物取扱者に関すること。
- (6) 防災協会に関すること。
- (7) その他危険物等の火災予防に関すること。

指導係

- (1) 建築物の同意事務に関すること。
- (2) 防火対象物の消防用設備等に関すること。
- (3) 防火管理者に関すること。
- (4) 旅館、ホテル等の通知書の交付に関すること。
- (5) 防火思想の普及宣伝の計画及び実施に関すること。

- (6) 火災の調査に関すること。
- (7) 幼年消防クラブ、少年消防クラブ及び婦人防火クラブの育成指導に関すること。
- (8) 自衛消防隊等の育成指導に関すること。
- (9)消防設備士会に関すること。
- (10) 予防統計及び広報に関すること。
- (11) その他火災予防に関すること。

警防課

警防係

- (1)課の庶務に関すること。
- (2) 警防業務の運営及び管理に関すること。
- (3) 救急救命士養成に関すること。
- (4) 救急業務高度化に関すること。
- (5) 筑後地域消防通信指令業務に関すること。
- (6)消防の応援協定に関すること。
- (7) その他警防に関すること。

消防署

警備第1課 ・ 警備第2課

消防係

- (1)課の庶務に関すること。
- (2) 職員の服務規律に関すること。
- (3) 職員の配置に関すること。
- (4) 職員及び消防団員等の訓練指導に関すること。
- (5) 職員の給与品及び貸与品の管理に関すること。
- (6) 広報に関すること。
- (7) 庁舎及び備品等の維持管理に関すること。
- (8) 少量危険物及び指定可燃物の規制事務の指導に関すること。
- (9) 火災等の原因及び損害の調査に関すること。
- (10) 防火対象物の消防用設備等の指導に関すること。
- (11) 予防査察に関すること。
- (12) 火災予防の実施及び指導に関すること。
- (13) 諸証明及び各種届出に関すること。
- (14) その他警備に関すること。

救急係

- (1) 救急統計に関すること。
- (2) 救急機械器具施設の運用及び整備保全に関すること。
- (3) 救急に関すること。

救助係

- (1) 救助統計に関すること。
- (2) 潜水に関すること。
- (3) 消防機械器具施設の運用及び整備保全に関すること。
- (4) 水・火災、その他災害の予防警戒及び防ぎょに関すること。

- (5) 救助の技術研究及び訓練計画に関すること。
- (6) 消防対象物の調査指導に関すること。
- (7) 消防特別警戒に関すること。
- (8) 地理水利に関すること。
- (9) 救助に関すること。
- (10) 危険物規制事務の指導に関すること。

通信•企画係

- (1)消防統計及び消防情報に関すること。
- (2) 気象に関すること。
- (3) 火災警報に関すること。
- (4) 非常招集に関すること。
- (5) 通信・指揮運用に関すること。
- (6) 警防事務の調査研究及び企画立案に関すること。
- (7) 消防機械器具施設の企画整備及び管理に関すること。
- (8) 消防機械器具等の改良考案に関すること。
- (9) 警防計画及び訓練に関すること。
- (10) その他通信・企画に関すること。

分署 · 出張所

消防第1係、消防第2係、救急第1係、救急第2係

(1)警備第1・2課、消防係、救急係、救助係、通信・企画係に同じ。

消防相互応援協定の状況

協定名	協定市町村	締結年月日	協定の内容
高速自動車道における消防相互応援協定	福岡県下16消防本部	昭和61年10月15日	火災・事故発生時に相互の消防力を活用 し被害を最小限に防止する
福岡県消防相互応援協定	福岡県内の全市町村全 消防本部	平成 元年 3月25日	県内において大規模な災害が発生した場 合に広域応援体制を確立することにより、 災害による被害を最小限に防止する
隣接常備消防相互 応 援 協 定	日田玖珠広域行政事務 組合	平成 2年 2月26日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防 力を活用し被害を最小限に防止する
消防相互応援協定	田川地区消防組合	平成 5年 6月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防 力を活用し被害を最小限に防止する
消防相互応援協定	飯塚地区消防組合	平成 6年12月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防 力を活用し被害を最小限に防止する
常備消防相互応援協定	久留米広域市町村圏事 務組合	平成21年 4月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防 力を活用し被害を最小限に防止する
常備消防相互応援協定	筑紫野太宰府消防組合	平成21年 4月 1日	火災・地震等の災害発生時に相互の消防 力を活用し被害を最小限に防止する

消防本部の沿革

年	次	主 な で き ご と
	3月	〇甘木市消防本部(署)創設、市長が消防長事務取扱
		〇甘木市消防本部(署)発足
		〇職員20名採用
昭和40年	4月	〇幹部職員5名採用
		〇仮庁舎にて業務開始
	10月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入
		〇救急業務任意実施
	1月	〇消防庁舎完成移転
 昭和41年	9月	○財団法人日本船舶振興会、財団法人日本消防協会、甘木ライオンズクラブ出資により
哈和4 4		救急自動車の寄贈を受ける
	11月	〇消防専用無線(中短波)基地局1局、移動局1局開局
	1月	〇甘木市危険物安全協会発足
	3月	〇消防庁長官表彰旗を受賞
昭和42年		〇筑後地区消防設備士会甘木部会発足
	10月	〇社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車 [BD-I型] の寄贈を受ける
	12月	〇消防専用無線(中短波)移動局1局増設
昭和43年	4月	〇救急業務開始(指定実施)
四和43千	11月	〇職員4名採用 職員29名となる
	3月	〇職員1名退職
昭和44年	4月	〇職員1名採用
	8月	〇消防長を専任とし、消防署長兼務とする
昭和45年	5月	〇有線放送マイクサイレン設置
	4月	〇職員7名採用 職員36名となる
 昭和46年	6月	〇甘木市危険物安全協会を甘木・朝倉危険物安全協会に改名
HD 7H 4 O 4+		〇甘木市少年消防クラブ結成発足
	10月	〇三輪町の救急業務を受託
昭和47年	3月	〇社団法人日本損害保険協会より救急自動車の寄贈を受ける
PD 7D 4 7 4+	5月	〇事務職員1名採用 職員37名となる
	1月	〇甘木ロータリークラブより救急自動車の寄贈を受ける
	6月	〇職員7名採用 職員44名となる
昭和48年	11月	〇職員2名採用 職員46名となる
	12月	○消防長の署長兼務を解き、消防長・署長の専任制をとる
		〇朝倉町の救急業務を受託
昭和49年	1月	〇消防専用無線(超短波)基地局1局、移動局5局開局

年	次	主なできごと
	3月	〇甘木市少年消防クラブ、県知事表彰を受賞
四和6年	6月	〇職員1名退職(他消防本部へ転出)職員45名となる
昭和49年	7月	〇夜須町の救急業務を受託
		〇職員1名退職(他消防本部へ転出)職員44名となる
	1月	〇甘木・朝倉危険物安全協会より防火広報車の寄贈を受ける(予防課配置)
	3月	○化学消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入(本署配置)
昭和50年		○甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より表彰旗受賞
	4月	〇職員2名採用 職員46名となる
		〇開庁10周年記念式典開催
	3月	〇甘木市少年消防クラブ、日本防火協会表彰を受ける
	4月	〇福岡県消防学校へ教官として1名派遣(1年間)
昭和51年	10月	〇甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防発足
	12月	〇社団法人日本損害保険協会より救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける
		(西部分署配置)
	1月	〇職員12名採用 職員58名となる
	3月	〇水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕2台購入(東部・西部分署配置)
		〇消防救急指令装置導入
	4月	〇東部分署開庁 (仮庁舎)
		〇職員17名採用 職員75名となる
		〇福岡県消防学校へ教官として職員1名派遣(2年間)
昭和52年	8月	○東部分署新庁舎へ移転
		〇テレオートガイド装置によるテレホンサービス開始
	10月	○潜水救助隊実働開始
	11月	〇社団法人日本損害保険協会より救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける
		(朝倉出張所配置)
		〇通信専従員任命
	12月	〇西部分署開庁
	3月	〇職員1名退職 職員74名となる
	4月	〇職員1名採用 職員75名となる
		〇職員8名採用 職員83名となる
昭和53年	6月	〇水そう付消防ポンプ自動車〔I -A型〕購入(朝倉出張所配置)
	7月	○朝倉出張所開庁
		〇司令車2台購入(東部分署·西部分署配置)
	8月	○水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入(本署配置)

年 次		主 な で き ご と										
昭和53年	10月	〇職員1名退職、5名採用 職員87名となる										
昭和53年	12月	〇福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける (本署配置)										
	2月	〇社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車 [BD-I型] の寄贈を受ける										
		(本署配置)										
		〇消防用無線中継局開局										
	3月	〇人員輸送車購入 (総務課配置)										
昭和54年	4月	〇福岡県消防学校へ教官として職員1名派遣(1年間)										
	6月	〇甘木ライオンズクラブよりレサシアン1体の寄贈を受ける										
	10月	〇甘木・朝倉危険物安全協会より査察車の寄贈を受ける(予防課配置)										
		〇辻婦人防火クラブ(昭和46年4月4日発足)の事務局を消防本部に移管										
	11月	〇甘木朝倉少年婦人防火委員会発足										
	5月	〇職員1名退職 職員86名となる										
	6月	〇資材運搬車〔2tトラック〕 購入 (本署配置)										
昭和55年		〇救命ゴムボート購入										
	9月	〇司令車購入 (朝倉出張所配置)										
	11月	〇財団法人日本防火協会より防火広報車の寄贈を受ける(予防課配置)										
	2月	〇辻婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より小型動力ポンプの寄贈を受ける										
	3月	〇消防本部(署)庁舎建設用地購入										
昭和56年		〇甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良表彰を受ける										
	7月	〇消防本部広報誌「こちら119」創刊号発行(年2回発行とする)										
	11月	〇三奈木婦人防火クラブ発足										
	2月	〇職員2名退職 職員84名となる										
		〇職員1名退職(福岡県消防学校へ転出)職員83名となる										
	3月	〇消防本部(署)新庁舎完成移転										
昭和57年		○無線によるサイレン制ぎょ開始										
	4月	〇事務連絡車購入(総務課配置)										
	8月	〇司令車購入 (本署配置)										
	9月	〇三奈木婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より小型動力ポンプの寄贈を受ける										
昭和58年	4月	〇職員8名採用 職員91名となる										
	2月	〇三奈木婦人防火クラブ、財団法人日本消防協会より昭和58年度定例表彰を受ける										
	6月	〇職員1名退職 職員90名となる										
昭和59年	9月	〇高圧ガス製造施設完成										
	12月	〇福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける										
		(東部分署配置)										

年 :	欠	主 な で き ご と
	1月	〇水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入(本署配置)
昭和60年	4月	〇開庁20周年記念式典開催
		〇消防本部「20年のあゆみ」発行
	2月	〇はしご付消防ポンプ自動車〔15m級〕 購入 (本署配置)
昭和61年	3月	〇甘木ライオンズクラブより救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける (西部分署配置)
	4月	〇庁用車購入 (総務課配置)
	2月	〇大分自動車道一部開通(鳥栖~朝倉)に伴う救急業務開始
四和らの左		〇社団法人日本自動車工業会より救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける (本署配置)
昭和62年	5月	〇建設省九州地方建設局主催の筑後川水防演習が実施される(朝倉町大字古毛)
	11月	〇職員1名退職 職員89名となる
	3月	〇救助工作車購入(本署配置)
		〇職員1名退職 職員88名となる
		〇甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良少年消防クラブ
昭和63年		表彰を受ける
	4月	〇職員3名採用 職員91名となる
	11月	〇福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける
		(朝倉出張所配置)
	3月	〇大分自動車道一部開通(朝倉~日田)に伴う救急業務開始
		〇社団法人日本自動車工業会より救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける (本署配置)
┃ ┃ 平成2年	4月	〇職員4名採用 職員95名となる
十八八二十	8月	〇職員1名理事長事務部局に出向 実員94名となる
	9月	〇社団法人日本損害保険協会より消防ポンプ自動車〔CD-I型〕の寄贈を受ける
		(本署配置)
	4月	〇職員6名採用 職員100名となる
	5月	〇甘木・朝倉危険物安全協会より予防指導車の寄贈を受ける(予防課配置)
 平成3年	6月	〇筑後地区消防設備士会甘木部会より視聴覚資材〔オートスライドプロゼクター〕の寄
十成5年		贈を受ける(予防課配置)
	12月	〇福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車〔2B型〕の寄贈を受ける
		(西部分署配置)
	2月	〇水そう付消防ポンプ自動車 [Ⅱ型] 購入 (西部分署配置)
	3月	〇職員1名退職 職員99名となる
平成4年		〇空中散布資器材(バケット他)購入
	4月	〇大規模山林災害総合訓練実施(甘木市大字菩提寺)
	5月	〇全国植樹祭に伴う警備実施(夜須町大字櫛木)

年 次		主なできごと											
	6月	〇職員1名退職 職員98名となる											
平成4年	7月	〇甘木・朝倉危険物安全協会、平成4年度消防関係安全功労者消防庁長官表彰を											
		受ける											
	10月	〇完全週休二日制を実施											
	2月	〇水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入(東部分署配置)											
	4月	〇職員3名採用 職員101名となる											
		〇幼年消防クラブ (40団体) 発足											
		○甘木朝倉少年婦人防火委員会、名称を変更し甘木・朝倉幼少年婦人防火委員会と											
		なる											
	6月	〇甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される(朝倉町大字田中)											
平成5年		○甘木・朝倉危険物安全協会、名称を変更し甘木・朝倉防災協会となる											
	7月	〇甘木・朝倉危険物安全協会、平成5年度安全功労者内閣総理大臣表彰を受ける											
	9月	〇大規模山林災害総合訓練実施(杷木町大字志波)											
	11月	○甘木・朝倉防災協会より、内閣総理大臣表彰に伴う記念事業として防火広報車の寄											
		贈を受ける(予防課配置)											
		○緊急通報システム(あさくらあんしんライン)実動開始											
		○消防緊急通信指令施設〔Ⅱ型〕導入に向けて通信指令室を増築											
	2月	〇水そう付消防ポンプ自動車〔I -A型〕購入(朝倉出張所配置)											
	4月	〇職員1名理事長事務部局に出向 実員100名となる											
 平成6年		〇職員15名採用 職員115名となる											
1 720-	9月	〇司令車2台購入(東部分署、西部分署配置)											
	10月	〇大規模山林災害総合訓練実施(夜須町大字三箇山)											
	12月	〇消防本部(署)庁舎改修工事完成											
	2月	〇職員1名退職 職員114名となる											
		〇司令車購入(東出張所配置)											
		○消防緊急通信指令施設〔Ⅱ型〕実動開始											
		〇阪神・淡路大震災に伴う応援出動 (タンク車1台)											
┃ ┃ 平成7年	3月	〇甘木・朝倉消防署東出張所落成											
1 /20 / 1		〇水そう付消防ポンプ自動車〔I -A型〕購入(東出張所配置)											
		〇福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車 [2B型] の寄贈を受ける											
		(東出張所配置)											
		○事務連絡車購入(総務課配置)											
		〇職員1名退職 職員113名となる											
	4月	〇東出張所開庁											

年	次	主なできごと											
	4月	〇職員2名採用 職員115名となる											
平成7年	8月	〇人員輸送車 [29人乗り] 購入 (総務課配置)											
	10月	〇開庁30周年記念式典開催											
		○消防本部「30年のあゆみ」発行											
	3月	〇化学消防ポンプ自動車〔I型〕購入(本署配置)											
		〇救急自動車〔2B型〕購入 (東部分署配置)											
平成8年		D職員1名退職 職員114名となる											
	4月	〇職員1名採用 職員115名となる											
	11月	〇高圧空気ガス製造施設設置											
	3月	〇消防ポンプ自動車 [CD-I型] 購入 (本署配置)											
		〇水そう付消防ポンプ自動車〔Ⅱ型〕購入(本署配置)											
		〇救急自動車〔2B型〕購入(本署配置)											
		〇甘木市少年消防クラブ、全国少年消防クラブ運営指導協議会より優良表彰を受ける											
	4月	〇職員1名採用 職員116名となる											
平成9年		〇職員1名退職 職員115名となる											
	6月	〇福岡県救急医療情報システムのパソコン設置											
		〇甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される(朝倉町大字田中)											
	8月	〇司令車購入(本署配置)											
	10月	〇司令車購入(朝倉出張所配置)											
	11月	〇集団救急事故訓練実施(甘木鉄道)											
	1月	〇福岡県共済農業協同組合連合会より救急自動車 [2B型] 寄贈を受ける											
 平成10年		(朝倉出張所配置)											
一人以10年	3月	〇職員1名退職 職員114名となる											
	4月	〇職員1名採用 職員115名となる											
	1月	○障害者用緊急通報ファクシミリ電話運用開始											
	2月	〇職員1名退職 職員114名となる											
	3月	〇高規格救急自動車購入(本署配置)											
 平成11年		〇職員2名退職 職員112名となる											
	4月	〇救急伝送受信装置締結(久留米大学病院・高度救命救急センター)											
		〇高規格救急自動車運用開始、救急救命士実働開始											
	10月	〇筑後地区消防設備士会甘木部会より一体型液晶ビデオ映写機の寄贈を受ける											
		(予防課配置)											
平成12年	2月	〇甘木ライオンズクラブよりレサシアン3体の寄贈を受ける											
平成13年	1月	〇財団法人日本消防協会よりリトルアン20体の寄贈を受ける											

年 次		主 な で き ご と
	2月	〇財団法人日本消防協会より防火広報車の寄贈を受ける(本署配置)
	3月	〇高規格救急自動車購入(西部分署配置)
		〇甘木ライオンズクラブより防災用資材運搬自動車の寄贈を受ける(本署配置)
 平成13年		〇職員1名退職 職員111名となる
一一次13年	4月	〇職員1名退職 職員110名となる
		〇職員2名採用 職員112名となる
	6月	〇庁用車購入(総務課配置)
	11月	〇はしご付消防自動車〔30m級〕購入 (本署配置)
	1月	〇社団法人日本損害保険協会より救助工作車の寄贈を受ける(本署配置)
	2月	〇甘木・朝倉広域市町村圏事務組合消防委員会(委員15名)を設置する
 平成14年	3月	〇財団法人日本防火協会より防火広報用視聴覚資器材補助金の交付を受ける
1770.174	4月	〇職員1名採用 職員113名となる
	5月	〇福岡県・甘木朝倉地区合同総合防災訓練実施(甘木市大字長田)
	6月	〇職員1名退職 職員112名となる
	3月	○消防総合OAシステム導入
		〇職員4名退職 職員108名となる
 平成15年	4月	〇職員4名採用 職員112名となる
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	5月	〇予防指導車購入(予防課配置)
	8月	〇消防総合OAシステム第2次導入
	11月	〇高規格救急自動車購入(東部分署配置)
	1月	〇甘木·朝倉消防本部基本方針決定
平成16年	4月	〇福岡県総務部消防防災安全課へ実務研修として職員1名派遣(1年間)
	6月	○福田婦人防火クラブ発足
	2月	○甘木ロータリークラブよりエアーテントの寄贈を受ける
	3月	〇職員1名退職 職員111名となる
	4月	〇職員2名採用 職員113名となる
		○安川婦人防火クラブ発足
平成17年	5月	〇開庁40周年記念式典開催
		〇甘木土木事務所主催の筑後川水防演習が実施される(朝倉町大字田中)
	9月	○蜷城婦人防火クラブ発足
	12月	○金川婦人防火クラブ発足
		〇甘木女性防火クラブ発足
 平成18年	3月	〇水そう付消防ポンプ自動車[Ⅱ型]購入(西部分署配置)
1 1/2/104		〇高規格救急自動車購入(朝倉出張所配置)

年 次		主なできごと
	3月	〇職員1名退職 職員112名となる
		〇三奈木婦人防火クラブ(昭和56年11月発足)の事務局を公民館に移管
		〇甘木市少年消防クラブを朝倉市少年消防クラブに改名
	4月	〇職員3名採用 職員115名となる
 平成18年		〇朝倉市少年消防クラブ比良松中学校班、杷木中学校班設立
一一次10年		〇上秋月婦人防火クラブ発足
	5月	○筑後地区消防設備士会甘木部会を筑後地区消防設備士会朝倉部会に改名
	7月	〇高木女性防火クラブ発足
	10月	〇指揮車購入(本署配置)
	12月	〇秋月婦人防火クラブ発足
	1月	〇水そう付消防ポンプ自動車[I 型]購入(東部分署配置)
	3月	〇職員3名退職 職員112名となる
		〇朝倉市少年消防クラブ、県知事表彰を受賞
 平成19年		〇財団法人日本防火協会より防火防災訓練用資器材補助金の交付を受ける
一一次「9千	4月	〇福岡県消防学校へ教官として職員1名派遣(2年間)
		〇職員3名採用 職員115名となる
	5月	○金川婦人防火クラブを金川女性防火クラブに改名
	6月	〇防火広報車購入(予防課配置)
	2月	〇高規格救急自動車購入(本署配置)
	3月	〇職員2名退職 職員113名となる
平成20年	4月	〇職員2名採用 職員115名となる
	9月	○筑後地区消防設備士会朝倉部会、創立40周年記念事業で高齢者世帯(250世帯)に
		住宅用火災警報器を設置
	2月	〇高規格救急自動車購入(西部分署配置)
	3月	〇職員3名退職 職員112名となる
平成21年	4月	〇職員4名採用 職員116名となる
	8月	OIP携帯位置情報表示装置運用開始
	11月	〇司令車購入(西部分署配置)
	2月	〇水そう付消防ポンプ自動車[Ⅰ型]購入(朝倉出張所配置)
	3月	〇はしご付消防自動車〔30m級〕オーバーホール
 平成22年		〇職員5名退職 職員111名となる
1 12224	4月	〇職員7名採用 職員118名となる
	8月	〇司令車購入(東部分署配置)
	12月	〇消防本部庁舎耐震診断実施

年 :	次	主なできごと										
	2月	〇朝倉自家用自動車協会より高規格救急自動車の寄贈を受ける(本署配置)										
		〇水そう付消防ポンプ自動車[I 型]購入(本署配置)										
 平成23年	3月	〇東日本大震災に伴う緊急消防援助隊(消火隊)派遣										
十成23年		〇職員6名退職 職員112名となる										
	10月	〇消防緊急通信指令システム改修工事										
	12月	〇消防本部庁舎耐震補強工事										
	1月	〇指揮車購入(本署配置)										
	3月	〇消防ポンプ自動車[CD-1型]購入(本署配置)										
		〇東出張所庁舎耐震診断実施										
	4月	〇職員5名採用 職員117名となる										
平成24年		〇筑後地域消防通信指令事務協議会設置(8消防本部)										
	5月	〇事務連絡車購入(総務課配置)										
	9月	〇職員1名退職 職員116名となる										
		〇全国瞬時警報装置(J-ALERT)設置										
	12月	〇司令車購入(朝倉出張所配置)										
	2月	〇水そう付消防ポンプ自動車[I 型]購入(東出張所配置)										
	3月	〇職員6名退職 職員110名となる										
 平成25年	4月	〇職員8名採用 職員118名となる										
1 1 1 1 2 2 3 7		〇福岡県消防長会県央地区会から福岡県消防長会県南地区会へ所属地区変更										
		〇筑後地域消防通信指令事務協議会へ事務局員として職員1名派遣										
	11月	〇事務連絡車購入(本署配置)										
	3月	〇化学消防ポンプ自動車〔I型〕購入(本署配置)										
		〇金川女性防火クラブ、県知事表彰を受賞										
		〇職員5名退職 職員113名となる										
 平成26年	4月	〇職員9名採用 職員122名となる										
1 /2== 1		〇西部分署庁舎耐震診断実施										
	9月	〇西部分署庁舎増改築設計										
	10月	〇はしご付消防自動車〔30m級〕オーバーホール										
	11月	〇甘木ロータリークラブより心肺蘇生訓練用人形5体、AEDトレーナー8器の寄贈を受ける										
	3月	〇高規格救急自動車購入(東部分署配置)										
		〇職員9名退職 職員113名となる										
平成27年	4月	〇職員2名採用 職員115名となる										
		〇再任用職員1名採用										
	6月	〇東部分署‧朝倉出張所庁舎耐震診断実施										

年 ;	次	主なできごと											
	10月	〇開庁50周年記念式典開催											
亚世纪左		〇一般財団法人救急振興財団より心肺蘇生訓練生体人形(成人・乳児用)1体、											
平成27年		AEDトレーナー2器の寄贈を受ける											
	11月	〇筑後地域消防通信指令センター仮運用開始(職員4名派遣)											
	1月	〇甘木・朝倉防災協会、福岡県知事より防火思想普及感謝状を受ける											
	2月	〇高規格救急自動車購入(朝倉出張所配置)											
		〇消防ポンプ自動車 [CD-I型] 購入 (西部分署配置)											
	3月	○筑後地域消防通信指令センター開庁式開催											
		〇西部分署庁舎増改築工事完了及び完成披露式開催											
		〇再任用職員1名退職											
		〇職員1名退職 職員114名となる											
平成28年	4月	〇職員6名採用 職員120名となる											
		〇西部分署新体制運用開始											
		○筑後地域消防通信指令センター運用開始											
		〇熊本地震に伴う緊急消防援助隊(消火隊・支援隊)派遣(第1~4次出動)											
	6月	〇甘木・朝倉防災協会、創立50周年記念事業で軽資材運搬車の寄贈を受ける											
		(本署配置)											
	10月	〇一般財団法人救急振興財団より心肺蘇生訓練用人形2体、AEDトレーナー1器の											
		寄贈を受ける											
	1月	〇職員1名退職 職員119名となる											
	2月	〇高規格救急自動車購入(東出張所配置)											
	3月	○消防署開放イベント開催											
		〇職員5名退職 職員114名となる											
	4月	〇三奈木婦人防火クラブ、県知事表彰を受賞											
		〇職員5名採用 職員119名となる											
平成29年	7月	〇平成29年7月九州北部豪雨が発生											
		7月5日に九州北部を中心に発生した集中豪雨で、甘木・朝倉消防本部管内において											
		は死者36名、行方不明者2名、多数の物的被害を出し激甚災害に指定される											
		〇平成29年7月九州北部豪雨により朝倉市及び東峰村が被災し、県内消防相互応援隊											
		(1,045隊3,833名)及び緊急消防援助隊(2,562隊9,166名)の応援を受ける											
		〇平成29年7月九州北部豪雨により東部分署庁舎が被災する											
		〇平成29年7月九州北部豪雨災害現場出動中の東部分署水そう付消防ポンプ自動車											
		[I 型]が土石流により流失する											
平成30年	3月	○消防署開放イベント開催											
		〇高規格救急自動車購入(西部分署配置)											

年 次		主 な で き ご と
	3月	○東部分署及び朝倉出張所車庫シャッター設置
		〇平成29年7月九州北部豪雨災害により被災した東部分署浄化槽の復旧工事実施
		〇高木女性消防クラブ、県知事表彰を受賞
平成30年	4月	〇職員3名退職 職員116名となる
		〇職員6名採用 職員122名となる
		〇福岡県総務部防災危機管理局消防防災指導課へ実務研修として職員1名派遣
		(2年間)

総務編

職員の配置状況		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	3
職員の任用状況		•		•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	3
職員数の推移		-				•								•	•	2	3
職員の勤続年数調			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	2	4
職員の年齢調	•		•	•	•	•	•	•	•	•			•	•	•	2	5
職員の教養実施状	況			•	•	•								•	•	2	6
職員の資格保有状	況					•					•			•	•	2	7
当初予算額 •																2	8

職員の配置状況

	階級	消防監消	消防司令長 消課		消防司令補係	消防士長主	消防副士長	消 防 士 主	合
	所属	防長	防 署 長長長	雅長分 署 所補署 長長長佐長長	長	任 主 査査	査	査事	計
	消防長	1							1
消	次 長		1						1
	総務課		[1]	1	1	3			5
防	総務課付					1		6	7
 本	予 防 課			2	1	3			6
A	警 防 課			2					2
部	筑 後 地 域 消 防 指令センター派遣			1	1	2			4
	小 計	1	1	6	3	9		6	26
	消防署長		1						1
消	警備第1課			4	4	5	2	6	21
	警備第2課			4	4	5	3	6	22
防	東部分署			3		5		3	11
	西部分署			3	4	4	2	8	21
署	朝倉出張所			[1]	2	4	1	3	10
	東出張所			(1)	2	4		4	10
	小 計		1	14	16	27	8	30	96
合	計	1	2	20	19	36	8	36	122

※〔〕は兼務者数

職員の任用状況

階級項目	消 防 監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	そ の 他	合計
退 職			2	1					3
採用							6		6
昇 任			2	3	4	4			13
再 任 用									

※退職は平成29年度中、採用・昇任・再任用は平成30年4月1日付

職員数の推移

各年度4月1日

平	成	2	6	年	度	1	2	20	17	40	12	30	122
平	成	2	7	年	度	1	1	21	18	35(1)	12	27	115(1)
平	成	2	8	年	度	1	1	21	19	33	13	32	120
平	成	2	9	年	度	1	2	20	19	35	8	34	119
平	成	3	0	年	度	1	2	20	19	36	8	36	122

※()は再任用者数

職員の勤続年数調

戦長の	キカ リソレ ー	外入口門						
17Hr. 4TL	消	消	消	消	消	消	消	合
階級		防		防		防		
	防	言	防	一言	防	副	防	
	193	수 수	司	수 수	士	+	193	
年数	監	消防司令長	令	消防司令補	長	消防副士長	士	計
		K		ım				
41	1		6					7
40		1	3					4
39			3					3
38								
37								
36								
35		1	5	1				7
34								
33								
32								
31								
			0	4				0
30			2	1				3
29								
28				3				3
27				5	1			6
26								
25				1	2			3
24			1	6	8			15
23				1				1
22				1				1
21				· · · · ·	1			1
20					1			1
19								
18								
17					1			1
16					2			2
15					4			4
14								
13					2			2
12					3			3
11					3			3
10					2			2
9					4			4
8					2	4		6
7					<u> </u>	•		
6						2	3	5
5						2	6	8
4							8	8
3							2	2
2							6	6
1							5	5
1未満							6	6
	1	2	20	10	36	8		
合 計		37.5	20	19			36	122
平均年数	41.0		37.2	26.2	16.3	6.8	2.9	17.2

[※]平均年数は経過年月数の値

職員の年齢調

拠兵の	1 1211111111							
	274	244	244	274	274	274	274	_
\ 階級	消	消	消	消	消	消	消	合
		防	防	奶	防	防		
	防	司		司		副	防	
		司令長	司	防司令補	士	士 長		
年齢	監	長	令	補	長	長	士	計
59	1		8					9
58		2	6					8
57								
56			1					1
55				1				1
54								
53			2					2
52								
51			1					1
50								
49				1				1
48			2	2				4
47				1				1
46				6	2			8
45				4	2			6
44				2	3			5
43				2	4			6
42					2			2
41								
40								
39					2			2
38					3			3
37								
36					1			1
35					1			1
34					3			3
33					2			2
32					1	1		2
31					3	-		3
30					2	2		4
29					4		1	5
28					1	2	1	4
27					•	1	2	3
26						2	4	6
25							5	5
24							7	7
23							3	3
22							4	4
21							4	4
20							7	
19							3	3
18							2	2
合 計	1	2	20	19	36	8	36	122
平均年齢		58.0	56.5	46.2	36.9	28.4	23.4	37.5
	け港年齢の		50.5	-7∪.∠	50.5	20.7	20.7	07.0

※平均年齢は満年齢の平均値

職員の教養実施状況

	教	養	項	目	平成29年度
	消防職員第13	33回初任教育			5
_	消防職員幹部	教育第10回初級	幹部科(A)		1
福 岡	消防職員幹部	教育第46回初級	幹部科(B)		1
県	消防職員専科	教育第8回特殊災	害科		1
消	消防職員専科	1			
防	消防職員専科	5			
学 - 校	消防職員第133回初任教育 消防職員幹部教育第10回初級幹部 消防職員幹部教育第46回初級幹部 消防職員專科教育第8回特殊災害和 消防職員專科教育第34回救急科 消防職員專科教育第35回救助科 消防職員專科教育第35回救助科 消防職員專科教育第35回救助科 消防職員專科教育第11回警防実務 第5回、第6回救急救命士処置拡大 新任係長研修 コーチング研修 対人関係能力向上研修(上司・先輩 対人関係能力向上研修(若手職員) 地方公務員法研修 救急救命士東京研修所第52期、九 指導救命士養成研修(九州研修所) 救急救命士就業前研修(2里マリア病 救急救命士就業中研修(聖マリア病	타		1	
^	消防職員特別	教育第11回警防	実務研修		2
	第5回、第6回	救急救命士処置拡	太大講習		4
	新任係長研修	:			1
市町	コーチング研修				1
7 村 研 修 所	対人関係能力	向上研修(上司・先	<u> </u>		1
修 所	対人関係能力	1			
	地方公務員法	 研修			1
救	救急救命士東	京研修所第52期、	、九州研修所第35	·····································	2
急 救	指導救命士養	成研修(九州研修	… 所)		1
命	救急救命士就	業前研修(聖マリフ			2
士 養	救急救命士就	業前研修(久留米	大学救命センター))	1
成	救急救命士就	業中研修(朝倉医	師会病院)		4
研 修	救急救命士就	業中研修(聖マリア	 ア病院)		4
等	救急救命士就	業中研修(久留米	大学救命センター))	3
	消防職員特別教育第11回警防実務研修 第5回、第6回救急救命士処置拡大講習 新任係長研修 コーチング研修 対人関係能力向上研修(上司・先輩) 対人関係能力向上研修(若手職員) 地方公務員法研修 救急救命士東京研修所第52期、九州研修所第35期 指導救命士養成研修(九州研修所) 救急救命士就業前研修(聖マリア病院) 救急救命士就業前研修(外留米大学救命センター) 救急救命士就業中研修(朝倉医師会病院) 救急救命士就業中研修(聖マリア病院) 救急救命士就業中研修(聖マリア病院)				43

職員の資格保有状況

資	格	級	消防監	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
		**								
職	員	数	1	2	20	19	36	8	36	122
	大型 一	種		1	17	18	36	6	11	89
自動	大型 二	種			2	1				3
自動車免許	中型 一	種	1					2	14	17
許	準 中型 一	種							8	8
	普通一	種		1	1				3	5
自	動車整備	±					1		1	2
救	急 救 命	±		1	4	7	14	1	3	30
応	急手当指導	員	1	2	20	19	36	8	25	111
衛	生 管 理	者			1					1
特	殊無線技	±	1	2	18	13	17		2	53
潜	水	±	1		8	6	14	3	4	36
水.	上安全法指導	員			1					1
ガ	ス溶接技	能			7	8	3		2	20
高圧	ガス製造保安責任	E者			8	2				10
予	防技術資格	者			1	7	18	2		28
危	険 物 取 扱	者	1	2	11	9	22	7	25	77
消	防 設 備	±			1	1				2
小	型船	舶		1	6	6	6	1	2	22
電	気 工 事	±				1	1			2
玉	掛技能資	格			5	4	2	1	2	14
小组	 型 移 動 式 クレ ー	・ン			1	9	8			18

当初予算額 (単位:千円)

区分		款		目	平成30年度	平成29年度		
	分担	金及び賃	担金	消防費負担金	1,246,024	1,272,658		
	使用	料及び引	€数料	消防手数料	500	500		
歳	財	産収	7	物品売払収入	1	1		
ns.	12/1	连 収	入	財産貸付収入	180	180		
	繰	越	金	繰 越 金	1	1		
7	諸	収	入	預金利子	1	1		
入	甜	4X	, ,	雑入	19,899	9,820		
	地	方	債	消防債	49,400	36,200		
			合	計	1,316,006	1,319,361		
	消	防	費	常備消防費	1,133,762	1,120,414		
	7H	נעו	其	消防施設費	77,841	89,885		
歳				一般元金	95,134	99,574		
	公	債	費	特別元金	5,887	5,666		
	Δ	以	兵	一般利子	976	1,195		
出				特別利子	406	627		
	予	備	費	予備費	2,000	2,000		
			合	計	1,316,006	1,319,361		

予 防 編

建築確認同意事務処理の状況	•	•	•	•	•	•	•	•	2	9
防火対象物の状況・・・・・					•	3	0	~	3	1
(防火対象物数・防火管理者該当事業	所•	查	察到	実加	包北	犬汅	?)			
中高層建築物の現況 (5階以上)				•	•	•	•		3	2
各種届出事務処理の状況・・・		•			•	•	•		3	3
危険物施設の状況・・・・・・		•			•	•	•		3	4
危険物施設の査察実施状況		•		•	•	•	•		3	4
危険物規制事務処理の状況・・・		•		•	•	•	•		3	5
危険物手数料徴収の状況・・・		•		•	•	•	•		3	5
甘木・朝倉幼少年婦人防火委員会				•	•	3	6	~	3	7
甘木・朝倉防災協会・・・・・					•				3	7
筑後地区消防設備士会朝倉部会		•	•	•	•	•	•		3	7
外郭団体の活動・・・・・・									3	8

甘木·朝倉防火標語 最優秀作品

(甘木・朝倉管内中学校より募集)

平成11年度 つけた火は 自分のせきにん 最後まで 心がけ それは防火の 平成12年度 第 1 歩 便利さと 恐さをかねた 身近な火 平成13年度 平成14年度 みのがすな 小さな火でも 命とり 消したはず 消えたはずでも もう一度 平成15年度 平成16年度 届けよう 防火の心 あなたから 火の始末 消すまであなたが 責任者 平成17年度 やっている? 消火の確認 平成18年度 防火の基本 平成19年度 消すまでは つけたあなたが みはり役 平成20年度 火のしまつ 君がしなくて 誰がする 消したはず 何より怖い その言葉 平成21年度 平成22年度 火をつけた あなたはすでに 責任者 火は奪う あなたの未来と 思い出を 平成23年度 消す心 いつも忘れず 火の用心 平成24年度 平成25年度 消すまでは 君が炎の 見張りばん 火は奪う あなたの未来も 平成26年度 財産も ONとOFF ちゃんと消したか 確認よしっ 平成27年度 「火は消した?」 常に心に 平成28年度 問いかけて 平成29年7月九州北部豪雨のため募集なし 平成29年度

建築確認同意事務処理の状況

	— 防火	市町村 対象物区分	朝倉市	東峰村	筑前町	合 計
	1	劇場、映画館、演芸場、観覧場	1			1
1	П	公会堂、集会場				
	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等				
		遊技場、ダンスホール				
2	/\	性風俗関連特殊営業を営む店舗等				
	=	カラオケボックス等				
	1	待合、料理店等				
3		飲食店	1		1	2
	4	百貨店、マーケット、物品販売店舗、展示場	4		2	6
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所等	2			2
5	П	寄宿舎、下宿、共同住宅	3		3	6
	イ	病院、診療所、助産所	1		1	2
		老人短期入所施設、障害者支援施設等				
6	/\	老人デイサービスセンター、保育所等	2			2
	=	幼稚園、特別支援学校	1			1
7	7	小、中、高等学校、大学、各種学校等	2			2
8	3	図書館、博物館、美術館等				
9	1	公衆浴場のうち蒸気、熱気浴場等				
9	П	イに掲げる以外の公衆浴場				
1	0	車両の停車場、船舶若しくは航空機の発着場				
1	1	神社、寺院、教会等	1		1	2
12	1	工場、作業場	13	2	2	17
	П	映画スタジオ、テレビスタジオ				
13	1	自動車車庫、駐車場	2			2
		飛行機又は回転翼航空機の格納庫				
1	4	倉庫	6	2		8
_1	5	前各号に該当しない事業場	18	1	6	25
16	1	特定複合用途防火対象物				
	П	イに掲げる以外の複合用途防火対象物	1	3		4
1	7	重要文化財等				
1	8	延長50メートル以上のアーケード				
		小 計	58	8	16	82
		一 般 住 宅	25	1	19	45
		農 業 用 倉 庫	4		1	5
		合計	87	9	36	132

防火対象物の状況

\	=							
		項目	防	火	対	象	物	数
	防	署 所 火対象物区分	本署	東部分署	西 部分署	朝 倉 出張所	東 出張所	合 計
	イ	劇場、映画館、演芸場、観覧場		1				1
1		公会堂、集会場	50	13	48	12	6	129
	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	1					1
	П	遊技場、ダンスホール	4		4			8
2	/\	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	=	カラオケボックス等						
	イ	待合、料理店等						
3		飲食店	38	9	18	7	4	76
4		百貨店、マーケット、物品販売店舗、展示場	113	12	45	17	11	198
	イ	旅館、ホテル、宿泊所等	14	23	5	1		43
5		寄宿舎、下宿、共同住宅	386	28	163	10	1	588
	イ	病院、診療所、助産所	40	6	16	4	2	68
6		老人短期入所施設、障害者支援施設等	17	3	19	2	2	43
6	/\	老人デイサービスセンター、保育所等	33	7	19	5	3	67
	=	幼稚園、特別支援学校	3		5	2		10
7		小、中、高等学校、大学、各種学校等	57	11	28	8	2	106
8		図書館、博物館、美術館等	6		4		4	14
9	イ	公衆浴場のうち蒸気、熱気浴場等						
9	П	イに掲げる以外の公衆浴場	1	4				5
10	C	車両の停車場、船舶若しくは航空機の発着場						
1	1	神社、寺院、教会等	51	13	22	12	2	100
12	イ	工場、作業場	308	63	181	63	36	651
12		映画スタジオ、テレビスタジオ						
13	1	自動車車庫、駐車場	30	6	22	9	3	70
13		飛行機又は回転翼航空機の格納庫						
14	4	倉庫	241	57	151	63	6	518
1	5	前各号に該当しない事業場	319	37	206	61	27	650
16	イ	特定複合用途防火対象物	94	21	34	15	13	177
	П	イに掲げる以外の複合用途防火対象物	72	7	33	12	2	126
1	7	重要文化財等	6	1	1	1	2	11
18	3	延長50メートル以上のアーケード						
		合 計	1,884	322	1,024	304	126	3,660

ß	防火管	理 者	該当	事業所	fī	査	察	美	Ę j	施	状	況
本署	東部分署	西 部 分 署	朝 倉 出張所	東 出張所	合計	本部	本署	東部分署	西部分署	朝 倉 出張所	東 出張所	合計
	1				1			1				1
23	10	9	4	5	51		8					8
1					1							
3		4			7		1					1
34	5	13	3	2	57				2			2
67	7	32	10	7	123		11	1	7		2	21
7	15	2			24		2	3	3			8
30	1	12	2		45	1						1
16	1	5	1		23		1		3			4
17	3	14	2	2	38		1		2			3
22	6	13	4	3	48				1			1
3		4	2		9							
16	3	6	3	1	29			1	9			10
5		2		2	9		1					1
1	2				3							
18	8	8	4	1	39		2		1			3
23	3	9	8		43		6	3	13		1	23
									1			1
2		2	1		5		2		7		2	11
43	7	10	3	2	65		3		8			11
37	6	15	6	9	73		4		5		1	10
12		5			17				2			2
						10			1			11
380	78	165	53	34	710	11	42	9	65		6	133

中高層建築物の現況(5階以上)

			防火							a a 17th	_
	防り	火対象物区分	対象物総数	5 階	6 階	7 階	8 階	9階	10階	11階 以上	合計
		劇場、映画館、演芸場、観覧場	1								
1		公会堂、集会場	129								
	イ	キャバレー、カフェー、ナイトクラブ等	1								
			8								
2	/\	性風俗関連特殊営業を営む店舗等									
	=	カラオケボックス等									
	イ	待合、料理店等									
3	П	飲食店	76	1							1
4	ŀ	百貨店、マーケット、物品販売店舗、展示場	198								
5	イ	旅館、ホテル、宿泊所等	43	3	3		1		2	1	10
3		寄宿舎、下宿、共同住宅	588	17	2	3	1	2	1	3	29
	イ	病院、診療所、助産所	68	4							4
6		老人短期入所施設、障害者支援施設等	43	1							1
0	/\	老人デイサービスセンター、保育所等	67		1						1
		幼稚園、特別支援学校	10								
7	7	小、中、高等学校、大学、各種学校等	106								
8	3	図書館、博物館、美術館等	14								
9	イ	公衆浴場のうち蒸気、熱気浴場等									
		イに掲げる以外の公衆浴場	5								
10	0	車両の停車場、船舶若しくは航空機の発着場									
1	1	神社、寺院、教会等	100								
12	1	工場、作業場	651		1						1
'		映画スタジオ、テレビスタジオ									
13	1	自動車車庫、駐車場	70								
		飛行機又は回転翼航空機の格納庫									
14	4	倉庫	518								
1	5	前各号に該当しない事業場	650	3							3
16	イ	特定複合用途防火対象物	177	3		1			3		7
		イに掲げる以外の複合用途防火対象物	126		1						1
17	7	重要文化財等	11								
18	8	延長50メートル以上のアーケード									
		合 計	3,660	32	8	4	2	2	6	4	58
市		朝倉市	2,510	29	6	3	1	2	5	1	47
町村	ţ	東 峰 村	126								
別	IJ	筑 前 町	1,024	3	2	1	1		1	3	11

各種届出事務処理の状況

署 所 届出区分	本部	本 署	東部分署	西 部 分 署	朝倉出張所	東出張所	合 計
防火管理者選解任届	3	59	9	20	5	2	98
消防用設備等点検結果報告		448	79	144	32	39	742
防火対象物点検結果報告		37	4	16	1	2	60
消防計画作成(変更)届	6	68	10	24	6	3	117
液 化 石 油 ガス 貯蔵取扱い届圧縮アセチレンガス	13	1		4			18
消防用設備等設置届	185						185
消防用設備等着工届	99						99
防火対象物使用開始届	79	2		2	1		84
ボ イ ラ ー 設 置 届	5						5
発電・変電設備設置届	13	15		1			29
ネオン管灯設備設置届							
火災とまぎらわしい届		82	6	36	11	3	138
煙 火 打 上 げ 届		6	1	3			10
道 路 工 事 届		72	2	26	8	10	118
少 量 危 険 物 貯蔵取扱い届 指 定 可 燃 物	22	10		2			34
蓄 電 池 設 備 設 置 届	3			1		1	5
炉 設 置 届		1					1
露店等の開設届出書		11	4				15
合 計	428	812	115	279	64	60	1,758

危険物施設の状況

		—— 施 設	区分	製			貯	Ī	蔵	所				取:	汲 所		合
 	種類区:	分		造	屋内貯蔵所	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所	小計	計
	第	1	類														
単	第	2	類		1							1					1
	第	3	類														
	第	4	類	1	36	52	2	56		36	29	211	80	1	58	139	351
独	第	5	類		1							1			2	2	3
	第	6	類														
	混		在		2							2					2
	合		計	1	40	52	2	56		36	29	215	80	1	60	141	357
	5	倍以	下	1	20	11	2	22		28		83	6	1	32	39	123
指	5倍を超	रे∼1	0倍以下		5	13		17			8	43	15		10	25	68
定	10	~	50		8	21		13		1	21	64	31		13	44	108
数	50	~	100		2	3		2		7		14	6		2	8	22
量	100	~	150		3	2		1				6	4		2	6	12
区	150	~	200										3			3	3
分	200	~	1, 000		2	2		1				5	15		1	16	21
	1, 000何	音を超	えるもの														

危険物施設の査察実施状況

	本			署	10	10	1	2	28	51	4	15	19	70
署	東	部	分	署			2	1		3	3	1	4	7
===	西	部	分	署										
所	朝	倉と	出張	所										
別	東	出	張	所		1		1		2	2		2	4
	合			計	10	11	3	4	28	56	9	16	25	81

危険物規制事務処理の状況

	製			貯	蔵	所	:		取	扱	所	合
施設区分	20	屋	屋	屋	地	簡	移	屋	給	販	_	
	造	内	外	内	下	易	動	外	油	売	般	
		貯	タ	タ	タ	タ	タ	貯	取	取	取	
事務区分		蔵	ン・	ン・	ン・	ン・	ン・	蔵	扱	扱	扱	
争伤区力	所	所	ク	ク	ク	ク	ク	所	所	所	所	計
設 置 許 可 申 請		1									2	3
変更許可申請			1		1		2		4		6	14
完成検査申請									1		1	2
変更完成検査申請		1	1		1		3		4		6	16
完成検査前検査申請					1						28	29
仮使用承認申請					1				4		5	10
譲渡引渡届		7					1	28	1		3	40
種類数量変更届		1							1			2
廃 止 届				1			1		1			3
保安監督者選解任届		11	11	1	1				15		7	46
予防規程認可申請		1							1		1	3
設置者 変更届 代表者		8	8		2		6		7		16	47
工事届		3	1		1				13		2	20
休 止 届			6						1			7
合 計		33	28	2	8		13	28	53		77	242

[※] 完成検査前検査申請の数はタンク水張検査数を示す。

危険物手数料徴収の状況

(単位:千円)

設	置	許	可	20					104	124
変	更	許	可		10	13	26	104	157	310
設	置	完	成					26	26	52
変	更	完	成	10	5	6	20	52	78	171
水	圧	· 水	張						199	199
仮信	吏 用	・仮!	宁 蔵			5		22	27	54
合			計	30	15	24	46	204	591	910

[※] タンクの水張検査手数料は一般取扱所に含む。仮貯蔵手数料は屋外貯蔵所とする。

甘木·朝倉幼少年婦人防火委員会

地域における自主防火組織の指導育成機関として昭和54年に甘木・朝倉少年婦人防火委員会が 設立され、平成5年に幼年消防クラブの結成に伴い、甘木・朝倉幼少年婦人防火委員会としました。

幼年消防クラブの状況

市町村	クラブ数		ク ラ ブ 4	ろ(クラブ員数)		合計
		秋月保育所 (18)	安川保育所 (34)	福田保育所 (7)	蜷城保育所 (50)	
		黄金川保育所 (85)	三奈木保育所 (77)	立石保育園 (150)	真愛保育園 (224)	
却会士	00	生い立つ保育園(242)	馬田保育園 (135)	青梅保育園 (145)	甘木聖和幼稚園 (16)	1 007
朝倉市	23	甘木幼稚園 (204)	甘木双葉幼稚園 (68)	ひばりが丘学園 (8)	杷木保育所 (51)	1,837
		志和保育所 (28)	久喜宮保育所 (42)	どれみ保育園 (49)	松末保育所 休止	
		ひろにわ保育所 (95)	大福幼稚園 (51)	宮野幼稚園 (58)		
東峰村	2	小石原保育園 (12)	美星保育所 (37)			49
		美和みどり保育所(148)	みなみ幼稚園 (205)	大念寺中央幼稚園 (33)	篠隈保育所 (164)	
筑前町	9	なずな保育園 (129)	中津屋幼稚園 (49)	城北幼稚園 (43)	白梅保育園 (125)	991
		あさひ保育園 (95)				
合 計	34					2,877

少年消防クラブの状況

学年	3	年	2	年	1	年	合		計
学校	男	女	男	女	男	女	男	女	
十文字中学校			2	2	2	2	4	4	8
南陵中学校	3	2	2	2	2	2	7	6	13
秋月中学校	3	3	1	2	1	1	5	6	11
甘木中学校	6	6	5	5	5	5	16	16	32
杷木中学校	3	2	1	1			4	3	7
比良松中学校	3	7	1	1			4	8	12
合 計	18	20	12	13	10	10	40	43	83

婦人防火クラブの状況

クラブ名 区分	設 立 期 日	事務局	クラブ員数
三奈木婦人防火クラブ	昭和56年11月	三奈木コミュニティセンター	33
福田婦人防火クラブ	平成16年 6月	福田コミュニティセンター	13
安川婦人防火クラブ	平成17年 4月	安川コミュニティセンター	30
蜷 城 婦 人 防 火 クラブ	平成17年 9月	蜷城コミュニティセンター	活動休止中
金川女性防火クラブ	平成17年12月	金川コミュニティセンター	38
上秋月婦人防火クラブ	平成18年 4月	上秋月コミュニティセンター	10
高木女性防火クラブ	平成18年 7月	高木コミュニティセンター	13
秋月婦人防火クラブ	平成18年12月	秋月コミュニティセンター	28
合 計			165

甘木•朝倉防災協会

防災協会は、次の会員で構成され、地域の防火防災の普及に尽力しています。

市町村部会	朝 倉 市	東 峰 村	筑前町	大刀洗町	筑紫野市	合
給油 所関係	10		4			14
一般施設関係	138	4	51		1	194
自動車整備関係	53	1	21			75
自動車車体整備関係	6		4	1		11
燃料LPガス関係	22	2	5			29
合 計	229	7	85	1	1	323

筑後地区消防設備士会朝倉部会

消防設備士制度の発展を図るため、次の会員で構成されています。

会	員 種	類	特別会員	個人会員	賛助会員	合 計
会	員	数	20	2	7	29

外郭団体の活動

婦人(女性)防火クラブ

福岡市民センターで消火器取扱い訓練等を行いました。





◀ 朝倉市少年消防クラブ

朝倉市少年消防クラブ活動の一環で、 防火標識を作成し、新たに設置しました。

(南陵中学校班)



◀甘木・朝倉防災協会

平成29年7月九州北部豪雨災害支援活動を実施しました。

筑後地区消防設備士会朝倉部会 ▶

平成29年7月九州北部豪雨災害支援活動を実施しました。



警 防 編

車同	可の配	置北	犬況			•	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	٠	•	•	•	3	9
消防	方水利	の物	犬況			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	3	9
消防	方機材	か西	记置	状	況							•		•	•	•	•	•		4	0
火災	どの概	要		•		•			•	•		•		•	•		•	•	•	4	1
市田	丁村別	<u>י</u> ס[火災	状	況	及	び	月	別	の	火	災	件	数			4	2	~	4	3
原团	国別の	出り	と件 しょうしん しょうしん しょうしん しょうしん しょうしん しょく かんしん しょく かんしん しょく しんしん しんしん しゅうしん しゅうしん しゅうしん しゅうしん しゅうしゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく しゃく	数					•					•	•		•	•		4	4
火災	(件数	τ1 () 年	の	推	移			•					•	•		•	•		4	4
救急	息の概	要		•		•			•	•				•		•	•			4	5
市田	丁村別	の刺		状	況											•				4	6
月月	川、時	間別	削の	出	場	件	数									•				4	7
年歯	令区分	別、	程	度	別	•	月	別	の	搬	送	状	況			•	•	•	•	4	8
程度	き別の	搬设	送状	況					•	•				•	•		•	•	•	4	9
救急	息出場	骨件数	汝 1	0	年	の	推	移						•	•		•	•	•	4	9
応急	急手当	的		啓	発	活	動	状	況					•	•		•	•	•	5	O
救命	うスタ	リツラ	フの	い	る	事	業	所	認	定	制	度			•	•	•	•		5	0
救耳	力の概	要		•		•						•		•	•	•	•	•		5	1
月另	小、市	丁町木	寸別	の	出	動	件	数						•	•		•	•	•	5	1
発生	上場所	f別 0	り出	動	件	数			•	•				•	•		•	•	•	5	2
事故	섳種 別	出重	协件	数	比	率			•	•				•	•		•	•	•	5	2
出重	加人員	1. 7	舌動	人	員				•	•				•	•		•	•	•	5	3
救耳	力出動	件数	汝 1	0	年	の	推	移						•	•		•	•		5	3
通信	言指令	系統	充図			•			•	•				•	•		•	•	•	5	4
1 1	19番	着信	言状	況				•	•	•	•		•	•	•	•	•	•	•	5	5
医纲	퇏機 関	案内	勺状	況										•	•			•	•	5	5

用語の定義

建物火災焼損程度

全 焼・・・・・ 建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の70パーセント以上のもの又はこれ未満であっても残存部分に補修を加えて再使用できないものをいう。

半 焼・・・・・ 建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント以上のもので 全焼に該当しないものをいう。

部 分 焼・・・・・ 建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の20パーセント未満のもので ぼやに該当しないものをいう。

ぼ や・・・・・ 建物の焼き損害額が火災前の建物の評価額の10パーセント未満であり焼損 床面積が1平方メートル未満のもの、建物の焼き損害額が火災前の建物の評価 額の10パーセント未満であり焼損表面積が1平方メートル未満のもの、又は 収容物のみ焼損したものをいう。

救急事故種別

火 災・・・・・ 火災現場において直接火災に起因して生じた事故をいう。

自然災害・・・・・ 暴風、豪雨、高潮、地震等の異常な自然現象に起因する事故をいう。

水難事故・・・・・ 水泳中の溺者又は水中転落等による事故をいう。

交通事故・・・・・ すべての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故、若しくは歩行者等が 交通機関に接触したこと等による事故をいう。

労働災害・・・・・ 各種工場、事業所、作業場等で就業中発生した事故をいう。

運動競技・・・・・ 運動競技の実施中に発生した事故をいう。

一般負傷・・・・・ 他に分類されない不慮の事故をいう。

加 害・・・・・ 故意に他人によって傷害等を加えられた事故をいう。

自損行為・・・・・ 故意に自分自身に傷害等を加えた事故をいう。

急 病・・・・・ 疾病によるもので、救急業務として行ったものをいう。

そ の 他・・・・・ 転院搬送、医師・資器材等の搬送及びその他上記に分類不能のものをいう。

車両の配置状況

——————————————————————————————————————		消		消	防	署		合
配置車 種	先	防本部	本署	東部分署	西 部 分 署	朝倉出張所	東出張所	計
指揮	車		1					1
水そう付ポンプ	車		1	[1]	1	1	1	4
ポーンプ	車		1		1			2
化学	車		1					1
はしご	車		1					1
救 助 工 作	車		1					1
司 令	車		1	1	1		1	4
高規格救急	車		2	1	1	1	1	6
資 材 運 搬	車		2					2
防火広報	車	1						1
人 員 輸 送	車	1						1
その他の車	両	3	1					4
合	計	5	12	2	4	2	3	28

^{※[]}は本署からの臨時配置車両(平成29年7月九州北部豪雨り災による)

消防水利の状況

種別	:¥ 11.4△	防火力	水そう	井	戸	プール	∧ =1
市町村	消火栓	40t以上	20t以上	40t以上	20t以上	20t以上	合 計
朝 倉 市 (旧甘木市)	449	193	31	74	10	12	769
朝 倉 市 (旧杷木町)	146	57	5		2	4	214
朝倉市(旧朝倉町)		93	7	18	2	1	121
東峰村	11	53	3			2	69
筑 前 町	372	273	24	1	1	8	679
合 計	978	669	70	93	15	27	1,852

消防機材の配置状況

	及例の品色例が						
	配 置 先	本	東 部 分	西 部 分	朝倉出張	東 出 張	合
種	別	署	署	署	張 所	所	計
	カギ付はしご	3	1				4
	三 連 は し ご	2		1			3
	空気式救助マット	1					1
	救 命 索 発 射 銃	1					1
消	可搬式ウィンチ	2					2
1	マンホール救助器具	1					1
	マット型 空 気 ジャッキ	1					1
防	大型油圧スプレッダー	1					1
"	エンジンカッター	2	[1]	1	1	1	5
	ガ ス 溶 断 器	1					1
用	チェーンソー	7	1	2	2	2	14
	大型油圧切断機	1					1
	万 能 斧	4	1	1	2	2	10
資	可燃性ガス測定器	1		1	1	1	4
	空 気 呼 吸 器	26	[4]	7	4	4	41
	酸素呼吸器	5					5
器	潜水器具一式	6					6
	救 命 ボ ー ト	2					2
材	船 外 機	2					2
1 19	投 光 器 一 式	7	[1]	2	1	1	11
	緩 降 器	3		1	1		5
	化 学 防 護 服	4					4
	充電式油圧救助器具	2	[1]	1	1	1	5
	エアーテント	2					2
	気 道 確 保 資 器 材 一 式	3	1	1	1	1	7
救	自動体外式除細動器	5	2	2	2	2	13
	ショックパンツ	2	1	1	1	1	6
急	輸液用資器材一式	2	1	1	1	1	6
次	患者監視装置	5	1	1	1	1	9
資	自動心臓マッサージ器		1	1	1	1	4
器	喉頭鏡・マギール鉗子	6	1	1	1	1	10
	室内紫外線殺菌装置	2					2
材	室内オゾン殺菌装置	2	1	1	1	1	6
	紫外線殺菌ロッカー	1	1	1	1	1	5
N/C 3/	+大異からの時時配署治院機材(亚	<u> </u>		n 	1 -1 7 \		

※[]は本署からの臨時配置消防機材(平成29年7月九州北部豪雨り災による)

火 災 の 概 要

平成29年中の出火件数は43件で、前年より13件の増加となり、これは月平均3.6件、約8日に1件の割合で火災が発生したことになります。火災種別ごとにみると、建物火災23件(53.5%)、その他火災13件(30.2%)、車両火災6件(14.0%)、林野火災1件(2.3%)となっています。

損害額は64,342千円で、前年より8,551千円の減少となりました。また、火災により14世帯44人がり災し、死者1人、負傷者3人が発生しています。

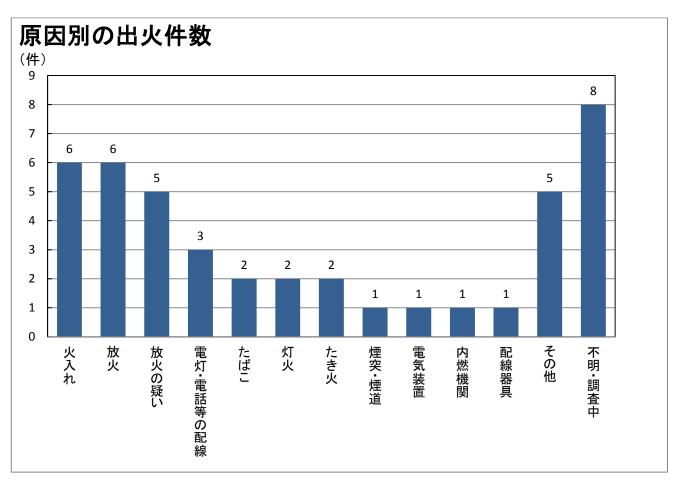
	項		E	3	単位	平 成 2 9年	平 成 2 8年	比較 (▲減)
火	災	発 5	生 件	数	件	43	30	13
	建	物	火	災	件	23	20	3
内	林	野	火	災	件	1	1	
訳	車	両	火	災	件	6	5	1
	そ	の ft	也火	災	件	13	4	9
総		損	害	額	千円	64,342	72,893	▲ 8,551
	建	物	書	額	千円	62,644	72,124	▲ 9,480
内	(内	収容物	物 損 害	額)	千円	18,558	20,098	▲ 1,540
	林	野り	害	額	千円			
訳	車	両 攅	害	額	千円	1,343	706	637
	そ	の他	損害	額	千円	355	63	292
建	物	焼損	床 面	積	m³	2,362	2,398	▲ 36
建	物	焼 損	表面	積	m¹	48	89	▲ 41
林	野	焼	員面	積	а	5	10	▲ 5
焼		損	棟	数	棟	37	27	10
IJ	災	世	帯	数	世帯	14	13	1
Ŋ		災	人	員	人	44	44	
死		者		数	人	1		1
負	,	傷	者	数	人	3	5	A 2
	月写	区 均 火	. 災 作	上 数	件	3.6	2.5	1.1
出		火		率	件	5	3.5	1.5
管		内	人	П	人	85,913	86,622	▲ 709

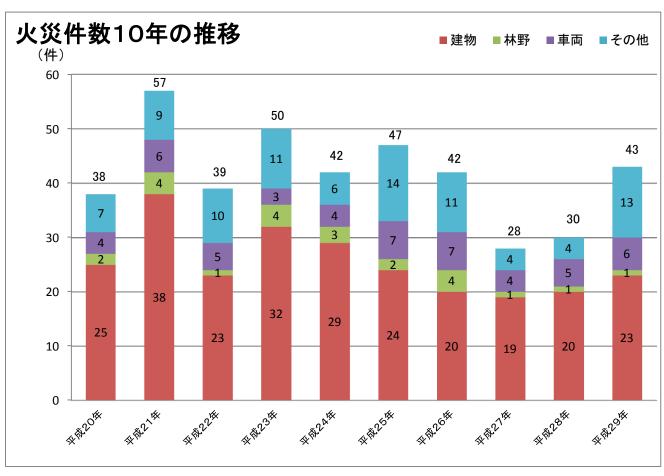
(注) 出火率は人口1万人当たりの出火件数(人口はそれぞれ年末の住民基本台帳人口)

市町村別の火災状況及び月別の火災件数

112-111		出	火	: 1	件	数	損	建	物の	D 損	害
項	i 目	巾	建	林	車	その	害 額 合	建 物 損 害	(内収容物損害額	焼損床面	焼 損 表 面
市町村人	年		.1.0		_	4.1	計	額	額	積	積
月別		計	物	野	両	他	(千円)	(千円)	(千円)	(m³)	(m²)
朝倉市	28	20	13	1	3	3	32,308	31,901	11,164	1,159	36
77 71	29	33	17		6	10	54,196	52,698	16,266	1,652	34
東峰村	28	2	1		1		6,497	6,465	219	148	
	29	3	3				8,867	8,867	2,292	554	8
筑前町	28	8	6		1	1	34,088	33,758	8,715	1,091	53
%t 10.1 -1	29	7	3	1		3	1,279	1,079		156	6
合 計	28	30	20	1	5	4	72,893	72,124	20,098	2,398	89
ц п	29	43	23	1	6	13	64,342	62,644	18,558	2,362	48
1 月		1			1		152				
2 月		2	2				660	660	49	183	
3 月		10	3		3	4	1,804	1,206	622	78	6
4 月		2	2				90	90	18		1
5 月		6	2		1	3	4,534	3,880	359	182	5
6 月		4	1	1		2	2,784	2,584	846		25
7 月		6	5			1	8,048	8,041	2,489	556	9
8 月		5	3			2	36,244	36,214	11,253	1,153	
9 月		3	2		1		6,994	6,994	2,551	205	
10 月		1	1				240	240	1		2
11 月		1	1				1,220	1,220	197	4	
12 月		2	1			1	1,572	1,515	173	1	
合	計	43	23	1	6	13	64,342	62,644	18,558	2,362	48

林野の抽	員害	車両の損	害	その他の損害	焼	損	1	東	数	Ŋ	災世	帯	数	Ŋ	死條	易者
損	焼	損	焼	損	合	全	半	部	ぼ	合	全	半	小		死	負
害	損	害	損	害										災		<i>1</i> =
額	面積	額	台数	額				分						人		傷
(千円)	(a)		**	(千円)	計	焼	焼	焼	ゃ	計	損	損	損	員	者	者
(111)	9	344	3	63	17	5	3	4	5	6		1	5	27		1
		011	J		.,	J	J	·								·
		1,343	6	155	26	10	1	7	8	10	4		6	33	1	3
	1	32	1		1	1				1	1			1		1
					8	5		3		3			3	9		
		330	2		9	3		3	3	6	1		5	16		3
	5			200	3	1		2		1			1	2		
	10	706	6	63	27	9	3	7	8	13	2	1	10	44		5
	5	1,343	6	355	37	16	1	12	8	14	4		10	44	1	3
	П	152	1													
					2	1		1		1			1	5		
		571	3	27	4	1		2	1	1			1	2		
					2				2							
		620	1	34	3	1		1	1	2	1		1	3		2
	5			200	2	1		1		1			1	5		
				7	10	6		3	1	1			1	2		
				30	8	5		1	2	4	2		2	21		
			1		3	1	1		1	1	1			2	1	1
					1			1		1			1	1		
					1			1		1			1	2		
				57	1			1		1			1	1		
	5	1,343	6	355	37	16	1	12	8	14	4		10	44	1	3





救急の概要

平成29年中の救急出場件数は4,275件で、前年に比べて322件の増加となりました。これは1日平均11.7件(前年10.8件)で約123分に1件の割合で出場し、管内住民の約22人に1人が救急車を利用したことになります。これを事故種別ごとに見ると、急病2,487件(58.2%)、一般負傷686件(16.0%)、転院搬送492件(11.5%)、交通事故366件(8.6%)、その他244件(5.7%)となっています。

また、管内には第三次救急医療機関が無いため、管外への転院搬送が大きな比率を占めています。

項				目	単位	平成29年	平成28年	比較 (▲減)
出		 場	 件	数	件	4,275	3,953	322
搬		 送	 件	 数	件	3,959	3,702	257
不	±	 般 送	件	 数	件	316	251	65
	火			災	件	6	5	1
出	自	然	災	害	件	45	1	44
	水			難	件	4		4
場	交	通	事	故	件	366	351	15
	労	働	災	害	件	115	70	45
件	運	動	競	技	件	22	18	4
米上	_	般	負	傷	件	686	592	94
数	加			害	件	12	13	A 1
の	自	損	行	為	件	34	41	A 7
	急			病	件	2,487	2,361	126
内	そ	転り	完 搬	送	件	492	494	▲ 2
	の	医的	币 搬	送	件			
訳		資 器	材 搬	送	件			
	他	そ	の	他	件	6	7	1
搬		送	人	員	人	3,995	3,752	243
傷	死			亡	人	82	74	8
病	重			症	人	613	617	A 4
程	中	4	等	症	人	1,959	1,857	102
	軽			症	人	1,341	1,203	138
度	そ	(<i>D</i>	他	人		1	A 1
1	日	平均出	出場 件	数	件	11.7	10.8	0.9
1	隊	平均出	出場 件	数	件	855	791	64
救	急	車	利 用	率	人	管内住民約22人に1人	管内住民約23人に1人	
管		内	人		人	85,913	86,622	▲ 709

(注) 人口はそれぞれ年末の住民基本台帳人口

市町村別の救急状況

項			目	単位	朝倉市	東峰村	筑 前 町	管 外	合 計
出	場	件	数	件	2,891	142	1,232	10	4,275
搬	送	件	数	件	2,680	129	1,142	8	3,959
搬	送	人	員	人	2,702	133	1,152	8	3,995
	火		災	件	6				6
l [自	然	災 害	件	40	5			45
出	水		難	件	4				4
場	交	通	事 故	件	235	15	110	6	366
	労	働	と 害	件	81	4	30		115
件	運	動	克 技	件	13		9		22
数	_	般 負	多	件	457	24	205		686
30	加		害	件	7		4	1	12
の	自	損	亍 為	件	21	2	11		34
	急		病	件	1,628	82	775	2	2,487
内	そ	転 院	搬送	件	395	10	87		492
訳	の	医師	搬送	件					
	•	資器	材搬送	件					
	他	そ(の他	件	4		1	1	6
傷	死		亡	人	52	1	29		82
病	重		症	人	440	17	156		613
程	中	等	症	人	1,337	70	547	5	1,959
	軽		症	人	873	45	420	3	1,341
度	そ	の	他	人					
1	日平:	均 出 場	计件数	件	7.9	0.4	3.4	0.03	11.7
各	市日	町 村	人口	件	54,056	2,175	29,682		85,913

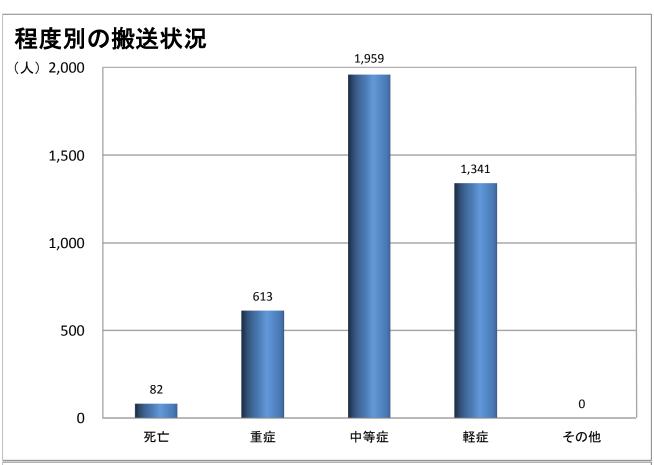
(注) 人口はそれぞれ年末の住民基本台帳人口

月別、時間別の出場件数(単位:件)

フルバト	1-1/2 1		7 2	117								ı			
種別	合	火	自	水	交	労	運	_	加	自	急		₹ 0	D 他	3
			然		通	働	動	般		損		転	医	資 器	そ
月			災		事	災	競	負		行		院搬	師搬	材	の
時間帯	計	災	害	難	故	害	技	傷	害	為	病	送	送	搬送	他
1月	395				42	5		63		2	238	45			
2 月	317				28	3	1	47	1	1	196	40			
3 月	330	1		2	28	11	2	63		3	188	32			
4 月	340				30	9	2	63		7	181	48			
5 月	323	1		1	30	9	5	42	1	4	190	38			2
6 月	325				26	5	4	56	1	2	191	40			
7 月	483		45		26	15	1	65	2	2	283	44			
8月	365	2		1	26	23	4	46			230	33			
9 月	318	2			37	9	1	54	1	1	163	49			1
10 月	342				26	8		50	3	4	208	42			1
11 月	320				19	9	2	64	1	5	179	40			1
12 月	417				48	9		73	2	3	240	41			1
合 計	4,275	6	45	4	366	115	22	686	12	34	2,487	492			6
0 ~ 2	181			1	5	2		17	2	1	143	10			
2 ~ 4	148	2	1		3	1		15	1	2	121	2			
4 ~ 6	135	1	4	1	11	2		15			97	3			1
6 ~ 8	275	1	2		34	4		40			186	7			1
8 ~10	466		4		50	16	3	89	3	5	240	56			
10~12	586		2	1	50	26	5	89	1	3	290	119			
12~14	469		1		39	18	4	83	1	4	241	77			1
14~16	487		13	1	47	18	2	85	1	4	244	72			
16~18	480	2	10		70	17	5	89		7	212	67			1
18~20	425		5		36	9	2	67		5	264	36			1
20~22	366		2		14	1	1	63		1	259	25			
22~24	257		1		7	1		34	3	2	190	18			1

年齢区分別、程度別、月別の搬送状況(単位:人)

	種別	ij	合	火	自	水	交	労	運	_	加	自	急	そ	·	他	,
\					然		通	働	動	般		損		転	医	資品	そ
					災		事	災	競	負		行		院 搬	師搬	器 材	の
項	E \		計	災	害	難	故	害	技	傷	害	為	病	送	送	搬送	他
搬	送人	Ę,	3,995	2	27	1	364	110	22	645	13	21	2,300	488			2
年	新生	児	3										2				1
龄	乳幼	児	172				6			34			119	13			
区	少	年	123				25		16	28	1	1	43	9			
分	成	人	1,188	1	8		205	84	5	101	10	15	621	137			1
別	高齢:	者	2,509	1	19	1	128	26	1	482	2	5	1,515	329			
程	死	亡	82		1		2	1		12		7	57	2			
111	重	症	613	2			30	8	2	102		2	320	147			
度	中等	症	1,959		14	1	126	55	8	286	2	7	1,160	298			2
別	軽	症	1,341		12		206	46	12	245	11	5	763	41			
נינל	その	他															
	1月	1	377				44	5		60			223	45			
	2月	1	296				31	3	1	40	1	1	179	40			
月	3 月	1	308				28	11	2	59		1	175	32			
	4 F	1	316				29	9	2	57		5	166	48			
	5月	1	293	1			29	9	5	40	1	3	167	36			2
	6月	1	312				27	5	4	52	1	1	182	40			
	7 F]	436		27		24	14	1	59	2	2	264	43			
	8 F]	349			1	26	21	4	46			218	33			
	9月]	301	1			38	8	1	52	1	1	150	49			
別	10 5	₹	315				23	8		46	4	2	191	41			
	11 5	₹	299				16	8	2	63	1	4	165	40			
	12 5	₹ .	393				49	9		71	2	1	220	41			





応急手当の普及啓発活動状況

区分		救 命	講習	
年	講習回数	新規受講者数	再受講習者数	숌 計
平成 15 年	82	1,837	194	2,031
平成 16 年	112	2,296	356	2,652
平成 17 年	74	1,280	275	1,555
平成 18 年	83	1,560	249	1,809
平成 19 年	70	1,132	201	1,333
平成 20 年	59	1,138	268	1,406
平成 21 年	33	692	104	796
平成 22 年	41	791	106	897
平成 23 年	45	882	115	997
平成 24 年	42	1,047	112	1,159
平成 25 年	39	987	65	1,052
平成 26 年	42	963	133	1,096
平成 27 年	38	812	52	864
平成 28 年	41	999	134	1,133
平成 29 年	26	575	85	660
合 計	827	16,991	2,449	19,440

[※] 過去15年間の新規受講者総数は16,991人で管内住民の約5人に1人が救命講習を受講したことになります。平成29年7月九州北部豪雨の影響のため、平成29年7月から平成30年2月まで救命講習を一時中止しています。

救命スタッフのいる事業所認定制度

消防本部においては、応急手当の普及啓発活動を推進するため、積極的に救命講習を開催しております。また一人でも多くの救命を行うことを目的とし、平成16年4月1日より、救命講習を受講した事業所を「救命スタッフのいる事業所」として認定する制度を実施しています。

救命スタッフのいる事業所認定状況

朝倉市	東峰村	筑 前 町	合 計 (事業所)
78	13	14	105

平成17年度から平成29年度までに各事業所の協力を得て105事業所が認定を受けています。 今後、更なる充実強化を目指します。

救助の概要

平成29年中の救助出動件数は97件で、前年より62件の増加となり、事故種別ごとにみると交通事故38件、水難事故4件、自然災害37件、機械による事故5件、建物等による事故3件、その他の事故10件となっています。これらの事故で延べ905人の隊員が出動し、137人を救助しました。また、平成29年7月九州北部豪雨に伴う出動件数は37件でした。

※救助出動件数等は甘木・朝倉消防本部出動事案で集計しています。なお、県内消防相互応援隊 及び緊急消防援助隊による救助出動件数は30件でした。

事故種別	火	災	交	水	風自	機よ	建よ	ガ 酸	破	そ事	合	前
	建	建 物	通	難	水 然	_{+#} る	物る	ス欠	裂事	の		
項目	物	以 外	事 故	事 故	害 災等 害	が事に故	等事に故	及事び故	事 故	他の故	計	年
出動件数			38	4	37	5	3			10	97	35
出動人員			444	45	241	51	28			96	905	432
救助人員			14	2	110	3	2			6	137	18
出動車両台数			147	17	67	17	9			35	292	143

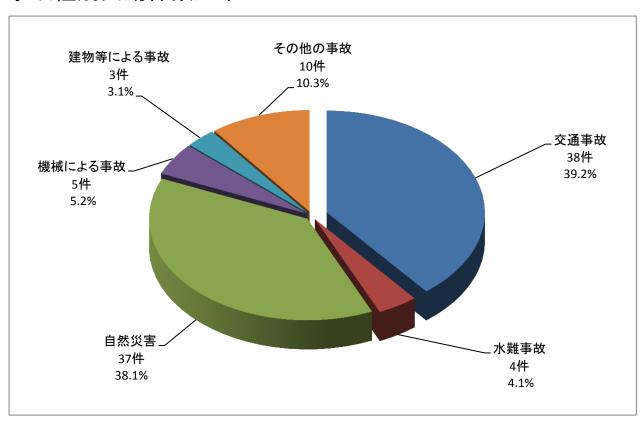
月別、市町村別の出動件数

事故種別	火	災	交	水	風自	機よ	建よ	ガ酸	破	そ事	合	前
月別	建	建 物	通 事	難 事	水 然 害 災	械 る 事	物 る 等 事	ス 及 事	裂 事	の 他		
市町村別	物	以 外	故	故	等害	に故	に故		故	の故	計	年
1月			4	1			2				7	3
2月			2				1			1	4	3
3月			4	1							5	
4月			4							4	8	2
5月			2	1		2				1	6	3
6月			2			1					3	1
7月			4		37						41	5
8月			3	1						1	5	3
9月			4			1				1	6	4
10月			2								2	2
11月			2							2	4	5
12月			5			1					6	4
合 計			38	4	37	5	3			10	97	35
朝倉市			29	4	32	3	2			8	78	13
東峰村					5	1	1			1	8	2
筑 前 町			7			1				1	9	15
管 外			2								2	5

発生場所別の出動件数

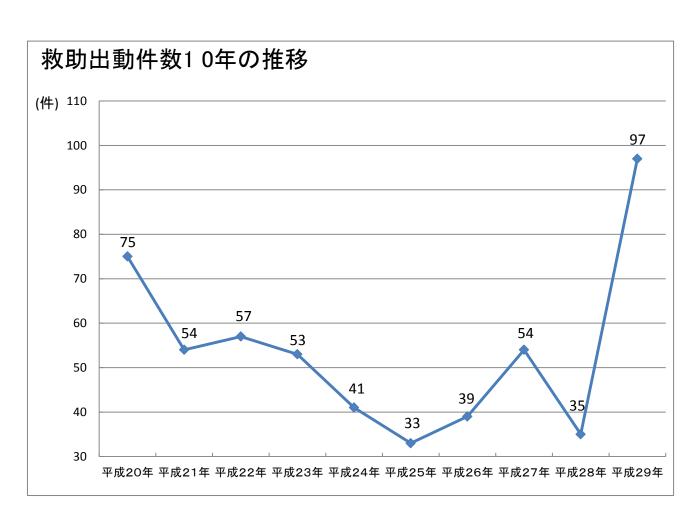
		<u> </u>	<u> </u>		<i>></i> >														
		事故和	重別	火	災	交	水	風	自	機	ょ	建	ょ	ガ	酸	破	そ	事	合
				建	建	通	難	水:	然	械	る	物	る	ス	欠	裂	の		
					物	事	事	害:	災	אנון	事	等	事	及	事	事	他		
発:	生場	所		物	以 外	故	故	等:	害	に	故	に	故	び	故	故	の	故	計
屋	住		居						5				3					1	9
内	そ	の他の屋	内						5										5
	道	高速自動	車道			5													5
屋	路	その他の記	道路			30		1	11		1							1	43
	水	内水	面			1	4		2									2	9
l	面	外 水	面																
外	Щ		岳															4	4
	そ	の他の屋	外			2		1	12		4							2	20
地	ļ		下																
そ		の	他						2										2
合			計			38	4	3	37		5		3					10	97

事故種別出動件数比率

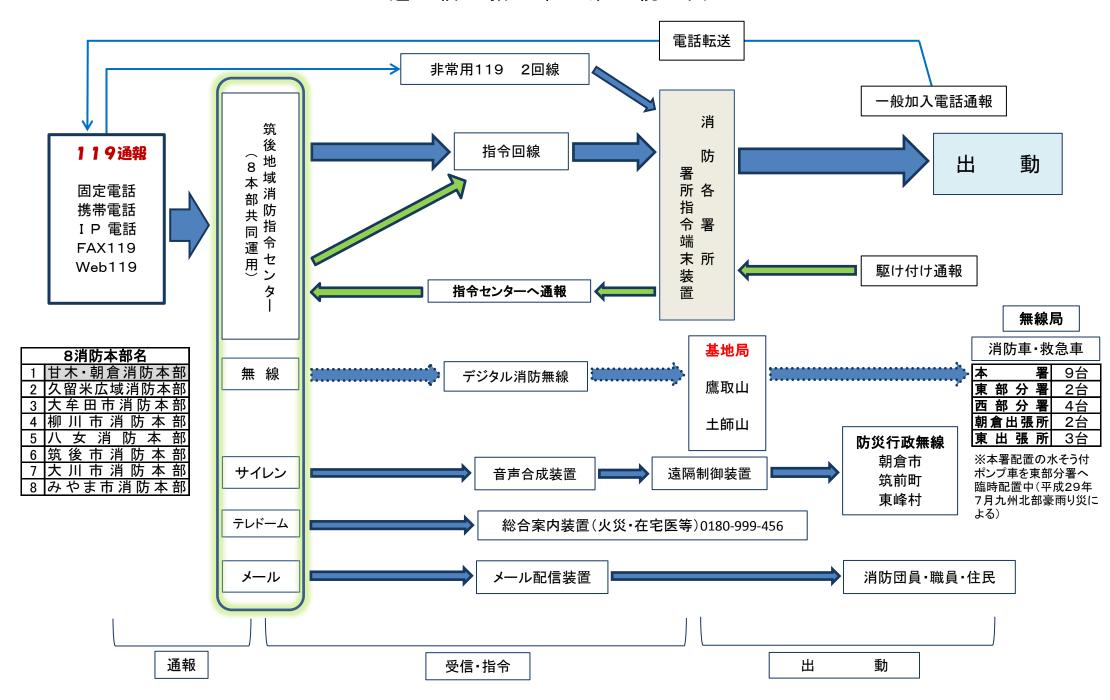


出動人員、活動人員

									1						_		ı —	-	
					火	災	交	水	風自	機	ょ	建	ょ	ガ	酸	破	そ	事	合
			事故	種別	建	建	通	難	水 然	械	る	物	る	ス	欠	裂	の		
						物 以	事	事	害災	175%	事	等	事	及	事	事	他		
項	目				物	外	故	故	等 害	に	故	に	故	び	故	故	တ	故	計
出	救	助	隊	員			155	14	32		20		12					39	272
動	消	防	隊	員			131	18	162		16		7					33	367
人	救	急	隊	員			158	13	47		15		9					24	266
	消	防	団	員															
員	合			計			444	45	241		51		28					96	905
活	救	助	隊	員			43	8	16		4		8					19	98
動	消	防	隊	員			28	2	97		5							19	151
人	救	急	隊	員			39	3	15		9							12	78
	消	防	寸	員															
員	合			計			110	13	128		18		8					50	327



通信指令系統図



119番着信状況

種兒	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
火	災	1	2	10	2	6	4	6	5	3	1	1	2	43
救 救	急助	402	321	335	348	329	328	524	370	324	344	324	423	4,372
そ災	の他害	47	37	48	56	47	42	816	39	45	34	29	62	1,302
合	計	450	360	393	406	382	374	1,346	414	372	379	354	487	5,717

問合わせ	朝倉市	筑前町	東峰村	合計
訓練誤報等	890	302	34	1,226

医療機関案内状況

区分	月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合 計
内	科	13	9	10	1	1	4	4	6	5	6	4	7	70
外	科	4	3	3	8	9	4	7	6	5	4	1	6	60
小	児 科	5	1		2	4		2	1	1		2		18
特	殊 科	6	4	4	2	6	2	1	5	2	5	1	3	41
合	計	28	17	17	13	20	10	14	18	13	15	8	16	189

消防団編

消防団員数・	٠	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5	6
車両台数・・・		•			•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	5	6
年齢別団員数	•	•	•	-	-	-		•	•	•	•	•	•	•		•	5	7
在職年数別団昌数	Δ																5	7

消防団員数

		市町	村	朝倉	東峰	筑前	合
区	分			市	村	町	計
定			員	979	172	323	1,474
団			長	1	1	1	3
副	<u> </u>		掛	5	1	1	7
分	寸		埇	22	4	7	33
副	分	<u> </u>	長	53	4	7	64
部			長	68 (1)	4	38	110 (1)
班			掻	121 (2)	12	55 (1)	188 (3)
団			員	544 (13)	127	159 (11)	830 (24)
合			計	814 (16)	153	268 (12)	1,235 (28)

[※] 朝倉市(司令長は副団長・副司令長は分団長・司令は副分団長に含む)

車両台数

市町村	朝	東	筑	合
	倉	峰	前	
車種	市	村	町	計
水そう付ポンプ車	2			2
ポーンプ車	20	2	7	29
小型ポンプ積載車	7	10	4	21
小型ポンプ	27		8	35
指 令 車	5	1	2	8
赤 バ イ ク	1			1
合 計	62	13	21	96

^{※ ()}は女性団員数

年齢別団員数

市町村	朝倉	東峰	筑前	合
年齢	市	村	町	計
20才未満	3	1		4
20才以上 ~ 25才未満	49	15	25	89
25才以上 ~ 30才未満	216	21	67	304
30才以上 ~ 35才未満	323	23	108	454
35才以上 ~ 40才未満	88	28	47	163
40才以上 ~ 45才未満	51	21	12	84
45才以上 ~ 50才未満	30	6	5	41
50才以上 ~ 55才未満	9	8	3	20
55才以上	45	30	1	76
合 計	814	153	268	1,235
平 均 年 齢	33.5	40.1	32.1	34.0

在職年数別団員数

市町村	朝	東	筑	合
	倉	峰	前	
年数	市	村	町	計
5年未満	370	49	137	556
5年以上 ~ 10年未満	264	28	91	383
10年以上 ~ 15年未満	93	31	25	149
15年以上 ~ 20年未満	49	15	8	72
20年以上 ~ 25年未満	16	21	1	38
25年以上	22	9	6	37
合 計	814	153	268	1,235